

小牧市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果に関する報告書

第1 点検及び評価の対象及び実施日

対 象 令和6年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況

実施日 令和7年7月11日

第2 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、令和6年度教育委員会基本方針に掲げた重点施策について、令和6年度実績をまとめた点検評価シートを作成した。当該点検評価シートを外部の学識経験者等からなる評価委員会に諮り、教育委員会にて議決した。

第3 点検及び評価の結果

点検評価シート（令和6年度実績）に記載

令和6年度の重点施策

基本目標1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

- ☞ 人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を進め、様々な課題に関心を持って主体的に学ぶことで、確かな学力を育みます。
- ☞ 理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	「学び合う学び」を支える教員研修の実施（施策１）	担当課 学校教育課																																							
内 容	「学び合う学び」を土台に据えた学級・授業づくりに役立つ実技講座や児童・生徒理解、指導にかかわる研修を効率的・効果的に実施します。																																								
達 成 状 況	・各小中学校においてO J Tを推進するとともに、学校経営や授業づくりに必要な専門的スキルと資質を高める研修や、学校現場での課題に対応するための研修を行いました。 ・教育委員会において参加者のニーズを踏まえ、「学び合う学び」を土台に据えた様々な実技研修や座学研修を行いました。 ・小牧市全教職員を対象に、小牧がこれまで取り組んできた「学び合う学び」の成果と課題を確認し、「探究的な活動」等、これからの小牧の教育について考える機会として教育講演会を開催しました。 ・教育現場での I C T機器の効果的な活用について考える研修を行いました。																																								
	◆主な研修の種類 <table><tr><th rowspan="2">研修項目</th><th colspan="3">参加延べ人数</th></tr><tr><th>R6 年度</th><th>R5 年度</th><th>R4 年度</th></tr><tr><td>現職教育研修（研修参加人数）</td><td>926 人</td><td>923 人</td><td>932 人</td></tr><tr><td>新任・少経験・経験教員研修</td><td>183 人</td><td>262 人</td><td>243 人</td></tr><tr><td>校長・教頭・教務主任・校務主任等研修</td><td>747 人</td><td>617 人</td><td>581 人</td></tr><tr><td>専門研修（教育課題への対応）</td><td>322 人</td><td>266 人</td><td>266 人</td></tr><tr><td>専門研修（教職専門性の向上）</td><td>461 人</td><td>940 人</td><td>725 人</td></tr><tr><td>特別研修</td><td>356 人</td><td>448 人</td><td>310 人</td></tr><tr><td>教育講演会</td><td>725 人</td><td>558 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>中堅教員国内派遣研修</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td></tr></table>			研修項目	参加延べ人数			R6 年度	R5 年度	R4 年度	現職教育研修（研修参加人数）	926 人	923 人	932 人	新任・少経験・経験教員研修	183 人	262 人	243 人	校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	747 人	617 人	581 人	専門研修（教育課題への対応）	322 人	266 人	266 人	専門研修（教職専門性の向上）	461 人	940 人	725 人	特別研修	356 人	448 人	310 人	教育講演会	725 人	558 人	0 人	中堅教員国内派遣研修	2 人	2 人
研修項目	参加延べ人数																																								
	R6 年度	R5 年度	R4 年度																																						
現職教育研修（研修参加人数）	926 人	923 人	932 人																																						
新任・少経験・経験教員研修	183 人	262 人	243 人																																						
校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	747 人	617 人	581 人																																						
専門研修（教育課題への対応）	322 人	266 人	266 人																																						
専門研修（教職専門性の向上）	461 人	940 人	725 人																																						
特別研修	356 人	448 人	310 人																																						
教育講演会	725 人	558 人	0 人																																						
中堅教員国内派遣研修	2 人	2 人	2 人																																						

点検評価シート（令和6年度実績）

課 題	・「学び合う学び」や「探究的な活動」が、かたちだけの取組とならないように、教員の力量向上のための研修を充実していく必要があります。 ・教職員研修の充実は必要ですが、多忙化解消の観点から授業や他の業務を考慮した研修計画が必要です。 ・集合研修、オンライン研修、動画活用など、実施方法についても検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・評価を含めた授業づくり、プログラミング教育を含めたICT教育の研修などを充実させます。 ・教職員の負担を考慮しながら研修内容を随時見直し、時代の要請、教職員のニーズに応じた研修を企画します。 ・「学び合う学び」や「探究的な活動」を進める教員の力量向上のための研修を引き続き企画します。 ・経験の少ない教員の増加が予想されていることから、児童生徒理解や教科の指導法等、より具体的な事例を挙げ効果的なOJTを進めます。 ・オンライン研修、動画を活用した研修も検討していきます。
評価委員の意見等	・これまでの成果と課題をもとに、「学び合う学び」を土台にして「探究的な活動」の充実を図ってください。児童生徒一人ひとりへの理解を深め、すべての児童生徒が、「学んでみたい」「学んでよかった」と実感できるよう、今後も授業研究や教員研修の充実に取り組んでください。 ・研修の種類や内容は非常に充実しており、多くの教員が参加している点は評価できます。ただし、形式的な受講に留まらず、実践的な学びへとつながる内容の工夫が今後の課題です。特にICTの活用に係る研修について、さらに充実させていく必要があります。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		I C Tを活用した学びの充実（施策3）		担当課 学校教育課																													
内 容		第2次小牧市学校教育I C T推進計画に基づき、I C T教育のパイオニア校（小牧小・大城小・小牧中・光ヶ丘中）において、クラウドサービスや1人1台端末を効果的に活用した学びについて研究・実践します。																															
達 成 状 況		・パイオニア校において、個別課題（①特別支援教育、②外国人児童生徒・日本語指導、③誰一人取り残されない学びの保障、④校務DX）に取り組み、実践結果を報告書にとりまとめ、全校に情報共有しました。 ・学校では、こどもが授業支援ソフトウェアに毎時間の振り返りを入力・蓄積して、自分の考えの変容や深まりを実感したり、次時の目標を具体的に立てることができました。また、共同編集機能により、リアルタイムでクラスメートの多様な考えに触れ、学びを深めることができました。 ・教員は子どもたちの振り返りデータから、授業のねらいに即した学びになっているかを確認したり、次時の授業展開の参考としました。 ・I C T支援員が各校を月4回程度訪問し、I C T機器を活用した教材・実践例の紹介や提案等による授業支援を行ったり、校内研修の支援を行いました。 ◆1日1回以上タブレットを活用しているクラスの割合 <table><tr><th></th><th>令和6年12月</th><th>令和5年12月</th><th>令和4年12月</th></tr><tr><td>小学校</td><td>65.1%</td><td>64.2%</td><td>55.5%</td></tr><tr><td>中学校</td><td>91.3%</td><td>81.1%</td><td>80.0%</td></tr><tr><td>市全体</td><td>71.3%</td><td>68.4%</td><td>60.4%</td></tr></table> ◆パイオニア校アンケート結果 <table><tr><th>項目</th><th>R6年12月</th><th>R5年12月</th><th>R4年12月</th></tr><tr><td>タブレットを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合</td><td>87.7%</td><td>—</td><td>82.2%</td></tr><tr><td>授業の中でI C T機器を活用したいと感じている教員の割合</td><td>97.8%</td><td>95.1%</td><td>96.0%</td></tr></table>					令和6年12月	令和5年12月	令和4年12月	小学校	65.1%	64.2%	55.5%	中学校	91.3%	81.1%	80.0%	市全体	71.3%	68.4%	60.4%	項目	R6年12月	R5年12月	R4年12月	タブレットを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	87.7%	—	82.2%	授業の中でI C T機器を活用したいと感じている教員の割合	97.8%	95.1%	96.0%
	令和6年12月	令和5年12月	令和4年12月																														
小学校	65.1%	64.2%	55.5%																														
中学校	91.3%	81.1%	80.0%																														
市全体	71.3%	68.4%	60.4%																														
項目	R6年12月	R5年12月	R4年12月																														
タブレットを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	87.7%	—	82.2%																														
授業の中でI C T機器を活用したいと感じている教員の割合	97.8%	95.1%	96.0%																														

点検評価シート（令和6年度実績）

課 題	・ 日常の授業でより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や発達障がいなど、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用していく必要があります。 ・ 次世代の校務DXに向けて、クラウドツールを活用し、校務の効率化・ペーパーレス化を進める必要があります。
今後の取組の方向性	・ 不登校及び別室登校児童生徒等の学習支援・相談、校務DXなどにおいて、ICTの活用を推進します。 ・ FAX及び押印等の見直しも含めて、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を推進します。
評価委員の意見等	・ ICTを活用した学習は随分と広がってきているようですが、小学校と中学校との間での開きがある様です。児童生徒一人ひとりへの支援や、校務DX化に取り組むとともに、授業での学びの質を高めるためのICTの活用について、教員間・学校間での格差が拡大しない様に、教員同士の学び合い（教員研修・授業研究）の充実に取り組んでください。 ・ 不登校及び別室登校児童生徒等の学習支援や相談への活用推進はとてもよいと思います。 ・ ICTの活用率が年々向上しており、生徒の主体的な学びを促進している点は高く評価できます。今後は、不登校支援や校務DXなどへの展開が期待されます。 ・ タブレットを活用した授業がわかりやすいと感じた児童生徒の割合の増加はいい状況です。 ・ 児童生徒の学習支援や相談、また教員の校務効率化においてDX化は賛成です。一方で、クラウドツールの利用を踏まえた保護者側のITリテラシー向上も必要だと感じます。 ・ ICT機器の活用をさらに深めるため、ICT支援員の充実も必要だと考えます。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		学校生活サポーターの配置（施策4）		担当課 学校教育課																
内 容		特別支援学級に在籍する児童生徒をよりきめ細やかに支援するため、学校生活サポーターを増員し、教員や特別支援教育相談員などとの連携により支援体制を充実します。																		
達 成 状 況		・各小中学校の特別支援学級において、担任のもとで児童生徒の学校生活を支援する「学校生活サポーター」を増員し、支援の充実を図りました。 ・学校生活サポーターは、児童生徒が学習課題を行う際の手助けや、他の学級との交流及び共同学習のための教室移動の付添いなど、担任と相談しながら個々の児童生徒の状態に応じた支援を行いました。 ・学校生活サポーターへの支援体制として、合同研修会を学期ごとに実施し、事例を持ち寄り支援の方法などを話し合ったり、カウンセラーの講演を聞いたりすることを通して、児童生徒への寄り添い方などを習得し、業務に役立てました。 <table><tr><th>項目</th><th>R6 年度</th><th>R5 年度</th><th>R4 年度</th></tr><tr><td>特別支援教育介助員</td><td>0 人</td><td>0 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>学校生活サポーター</td><td>21 人</td><td>18 人</td><td>16 人</td></tr><tr><td>特別支援学級に在籍する児童生徒数</td><td>361 人</td><td>324 人</td><td>299 人</td></tr></table>			項目	R6 年度	R5 年度	R4 年度	特別支援教育介助員	0 人	0 人	0 人	学校生活サポーター	21 人	18 人	16 人	特別支援学級に在籍する児童生徒数	361 人	324 人	299 人
項目	R6 年度	R5 年度	R4 年度																	
特別支援教育介助員	0 人	0 人	0 人																	
学校生活サポーター	21 人	18 人	16 人																	
特別支援学級に在籍する児童生徒数	361 人	324 人	299 人																	
課 題		・平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、より重度の障がいがある児童生徒が、地域の学校への就学を希望することが増えてきています。 ・外国人児童生徒の増加に伴い、障がいがある外国人児童生徒も増えてきています。 ・特別支援学級に入級する児童生徒が年々増加しており、学級数が増えてきています。（R4：71 学級 R5：73 学級 R6：79 学級）																		
今後の取組の方向性		・支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、令和 7 年度は学校生活サポーターを 1 名増員し、22 名体制とします。 ・今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の人数や個別支援が必要な児童生徒の状況を把握し、適切に学校生活サポーターを配置するように取り組んでいきます。																		
評価委員の意見等		・特別支援学級に在籍する児童・生徒が増加しており、より一層一人ひとりに寄り添った教育の重要性が増していると言えます。インクルーシブ教育の理念に基づき、通常の学級においても学びやすい環境づくりが求められます。通常の学級と特別支援学級が校																		

点検評価シート（令和6年度実績）

	内で分離しないよう、交流及び共同学習の充実が求められます。そのためには、さらなる学校生活サポーターの増員など、必要な対策を続けてください。 ・特別支援級児童生徒の増加に学校生活サポーターの増員が追いついていないと感じるため、10人に対して1人ぐらいの基準で充実させてください。 ・支援員の配置数の増加と定期的な研修の実施は効果的であり、学校現場の支援体制の強化につながっています。今後は、より専門的な対応ができるような体制整備が求められます。 ・在籍する児童生徒数が減少している中でも、特別支援の学級数が増加していますが、これは、きめ細かな特別支援教育という視点を尊重しているからだと思っています。そこには、「1人ひとり」という「教育の原点」があると考えています。今後も、その視点が尊重されて、そのことが学校教育の原点としてあり続けて欲しいと願っています。 ・特別支援学級の学級数が増加しているため、学校生活サポーターへの負担も増加していると感じます。
--	---

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		必要に応じた語学相談員の配置（施策 5）		担当課 学校教育課																													
内 容		日本語教育が必要な児童生徒の支援体制において、新たにベトナム語の語学相談員を配置し、通訳、翻訳、学習支援、進路相談などを行うことにより、外国人児童生徒の教育の充実を図ります。																															
達 成 状 況		・平成 30 年度から、語学相談員等のマネジメント機能を強化するため、日本語初期教室室長を配置しています。また、令和 6 年度は、ポルトガル語 6 名、スペイン語 5 名、タガログ語 6 名、中国語 3 名、ベトナム語 2 名の計 22 名の語学相談員（日本語初期教室を含む）を配置しました。 ・日本語指導員を日本語初期教室 2 名、巡回 2 名の計 4 名配置し、日本語の指導を行いました。 ・来日直後で日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語初期教室（にじっこ教室）で約 3 ヶ月間、集中的に日本語や日本の学校生活におけるルールを指導するとともに、母語の個別指導も実施しました。 <table><tr><th rowspan="2">場 所</th><th colspan="3">入室児童生徒数</th></tr><tr><th>R6 年度</th><th>R5 年度</th><th>R4 年度</th></tr><tr><td>にじっこ教室（大城小学校内）</td><td>13 人</td><td>10 人</td><td>13 人</td></tr><tr><td>分室（適応指導教室カルミア 1 階）</td><td>23 人</td><td>24 人</td><td>30 人</td></tr></table>				場 所	入室児童生徒数			R6 年度	R5 年度	R4 年度	にじっこ教室（大城小学校内）	13 人	10 人	13 人	分室（適応指導教室カルミア 1 階）	23 人	24 人	30 人													
場 所	入室児童生徒数																																
	R6 年度	R5 年度	R4 年度																														
にじっこ教室（大城小学校内）	13 人	10 人	13 人																														
分室（適応指導教室カルミア 1 階）	23 人	24 人	30 人																														
課 題		・日本語が不自由な児童生徒が増加傾向にあります。また、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語以外の言語の児童生徒が年々増えており、多言語化が進んでいます。 <table><tr><th>項 目</th><th>ポ ル ト ガ ル 語</th><th>ス ペ イ ン 語</th><th>タ ガ ロ グ 語</th><th>中 国 語</th><th>そ の 他</th><th>合 計</th></tr><tr><td>R6 年度</td><td>318 人</td><td>195 人</td><td>243 人</td><td>53 人</td><td>116 人</td><td>925 人</td></tr><tr><td>R5 年度</td><td>325 人</td><td>203 人</td><td>275 人</td><td>48 人</td><td>94 人</td><td>945 人</td></tr><tr><td>R4 年度</td><td>353 人</td><td>194 人</td><td>284 人</td><td>49 人</td><td>76 人</td><td>956 人</td></tr></table> ※その他（13ヶ国語）：英語、韓国語、ウルドゥ語（パキスタン）、インドネシア語、ベトナム語等				項 目	ポ ル ト ガ ル 語	ス ペ イ ン 語	タ ガ ロ グ 語	中 国 語	そ の 他	合 計	R6 年度	318 人	195 人	243 人	53 人	116 人	925 人	R5 年度	325 人	203 人	275 人	48 人	94 人	945 人	R4 年度	353 人	194 人	284 人	49 人	76 人	956 人
項 目	ポ ル ト ガ ル 語	ス ペ イ ン 語	タ ガ ロ グ 語	中 国 語	そ の 他	合 計																											
R6 年度	318 人	195 人	243 人	53 人	116 人	925 人																											
R5 年度	325 人	203 人	275 人	48 人	94 人	945 人																											
R4 年度	353 人	194 人	284 人	49 人	76 人	956 人																											
今後の取組 の 方 向 性		・多言語化に対応するため、日本語初期教室の体制の増強を検討していく必要があります。 ・出入国管理法の改正の影響を注視し、多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室に入室を希望した場合に対応できるよう、引き続き新たな施設の確保を検討します。 ・語学相談員に日本語能力検定の受験を勧めるなど、能力・意欲の向上に努めます。																															

点検評価シート（令和6年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・言葉の壁が、学習の障壁や仲間づくりの障壁にならないよう、一層の支援が求められます。日本語が十分ではないため、学び合いができないという発想ではなく、むしろ学び合いや人間関係づくりを通して、学習や言葉の壁を低くできるようなアプローチや、将来の夢や展望を描くことができる機会を充実させてください。 ・市民活動や民間の動きとも連動・協働して、包括的な支援体制の構築を目指してください。 ・親の都合で日本に来た外国籍の児童生徒が、日本語教育を十分理解できないがために日本社会にうまく適応できず、不本意な生活を送ってしまうことが心配されます。 ・語学相談員の増員だけではなく、様々な関係機関と連携し、十分な対応を望みます。 ・人口減少が進む中、日本に来た外国人児童生徒が日本になじみ、有意義な生活が送れることを願っています。 ・多言語対応の体制が整いつつあり、日本語初期教室との連携も良好である点が評価できます。今後は、利用者数の増加に対応できる安定的な人員確保が課題となります。 ・外国にルーツのある児童生徒の日本語習得や文化への理解は必要不可欠ですが、「らしさ」の消失につながるような指導にならないよう注意していただきたいです。母国との違いをしっかりと理解しつつ、児童生徒が「自分らしく」歩めることが大切です。また、今後、外国人児童生徒の増加にあたり、各言語の語学相談員を随時増やす必要性があると考えます。日本語検定をはじめ、スペイン語やベトナム語など主要言語取得費用の補助を市で検討されるなど、誰一人取り残さない支援につなげていって欲しいです。
----------------------------	--

基本目標2 認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

- ④ 国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育みます。
- ④ 体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		児童生徒の心のケアの実施（施策6）		担当課 学校教育課																
内 容	スクールソーシャルワーカーを増員し、貧困やネグレクト、ヤングケアラーなどといった家庭環境に要因がある児童生徒の支援体制を強化します。学校・家庭・地域との連携により不登校の未然防止を図るとともに早期対応を強化します。																			
達 成 状 況	・スクールソーシャルワーカーは平成 27 年度に 1 人配置され、平成 30 年度からは 2 人配置となり、令和 4 年度からは 3 人配置となり、令和 5 年度からは 4 人配置となりました。 ・スクールソーシャルワーカーの配置人数が増え、より多くの学校に派遣できるようになったことで、各校でのスクールソーシャルワーカーに対する理解度が深まり、より連携してケースに対応できるようになりました。 <table><tr><td></td><td colspan="3">スクールソーシャルワーカー活動実績</td></tr><tr><td></td><td>R6 年度</td><td>R5 年度</td><td>R4 年度</td></tr><tr><td>スクールソーシャルワーカー人数</td><td>4 人</td><td>4 人</td><td>3 人</td></tr><tr><td>訪問活動回数</td><td>1, 249 回</td><td>1, 167 回</td><td>862 回</td></tr></table>					スクールソーシャルワーカー活動実績				R6 年度	R5 年度	R4 年度	スクールソーシャルワーカー人数	4 人	4 人	3 人	訪問活動回数	1, 249 回	1, 167 回	862 回
	スクールソーシャルワーカー活動実績																			
	R6 年度	R5 年度	R4 年度																	
スクールソーシャルワーカー人数	4 人	4 人	3 人																	
訪問活動回数	1, 249 回	1, 167 回	862 回																	
課 題	・ひとり親や貧困の家庭などの増加により、支援が必要な子どもや家庭が抱える課題や問題は多岐にわたり、解決には多くの時間や人員などを要します。 ・学校と関係機関（警察・児童相談所・福祉事務所・市役所関係部署など）の連携を密にする必要があります。																			
今後の取組の方向性	・学校と情報共有し、早期対応に心がけていきます。 ・より多くの学校にスクールソーシャルワーカーを派遣できるようにするため、令和 6 年度からは 2 人増員し、6 人体制を目指しています。																			
評価委員の意見等	・スクールソーシャルワーカーについては、年々訪問回数が増加しており、また増員の構想もある様ですが、好転件数、支援中のケースの件数の推移などから支援がゆきとどいているかの把握に努め、充実を図ってってください。																			

点検評価シート（令和6年度実績）

	・施策11とも関連することですが、家庭環境の格差により、こどもたちが平等に望ましい教育が受けられない状況が見受けられることは残念なことです。スクールソーシャルワーカーの増員とともに、学校・担任等の連携を図り、少しでも多くのこどもたちを支援できるようにしてほしいです。 ・スクールソーシャルワーカーの活動実績が年々拡大しており、学校との連携も深まっていることを高く評価します。複雑化する家庭環境への対応には、さらなる連携強化が必要です。 ・欠席や不登校などの要因として、様々な家庭環境が挙げられます。校内組織を基盤として、関係団体や関係組織と連携することで様々な対策が取り組まれることとなりますが、その場合に、プライバシーの問題に直面することが多くあります。過去においては、「法治国家として法律に抵触することは」などという一言で済まされる傾向が多かったことも記憶しています。 「そうだから、できない」ではなくて、「何処までなら、できるか」という発想が、こどもたちの将来を展望することになると思っているため、その視点を崩さない協議のあり方に期待しています。 （貧困・ネグレクト・ヤングケアラーなど） ・不登校の未然防止を図るよりも、まずは、その原因究明と学校・家庭・地域との連携により包括的な支援対策を強化する方が重要だと考えます。
--	---

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	施設配本サービスの実施（施策８）	担当課									
		図書館									
内 容	配本サービス拡充のため、現在未実施の「小規模保育事業所」に対し、サービスの周知を行います。										
達 成 状 況	・小規模保育事業所 18 施設に配本サービス利用の勧奨通知を送付し、周知を行いました。そのうち 14 施設※から利用申出があり、継続してご利用いただいています。これに伴い配本資料の貸出点数が増加しました。 ※小規模保育所への利用勧奨は令和 6 年 1 月より順次開始しており、この 14 施設には前年度中に利用申出のあった施設を含みます。										
	配本登録団体数 ※()は小規模保育所の団体数 <table><tr><td>対前年度末増減</td><td>令和 6 年度末</td><td>令和 5 年度末</td><td>令和 4 年度末</td></tr><tr><td>6 (6)</td><td>152 (16)</td><td>146 (10)</td><td>149 (2)</td></tr></table>			対前年度末増減	令和 6 年度末	令和 5 年度末	令和 4 年度末	6 (6)	152 (16)	146 (10)	149 (2)
	対前年度末増減	令和 6 年度末	令和 5 年度末	令和 4 年度末							
	6 (6)	152 (16)	146 (10)	149 (2)							
	配本貸出点数 ※()は小規模保育所への貸出点数 <table><tr><td>対前年度末増減</td><td>令和 6 年度末</td><td>令和 5 年度末</td><td>令和 4 年度末</td></tr><tr><td>3, 688 (3, 814)</td><td>61, 556 (5, 019)</td><td>57, 868 (1, 205)</td><td>60, 901 (500)</td></tr></table>			対前年度末増減	令和 6 年度末	令和 5 年度末	令和 4 年度末	3, 688 (3, 814)	61, 556 (5, 019)	57, 868 (1, 205)	60, 901 (500)
	対前年度末増減	令和 6 年度末	令和 5 年度末	令和 4 年度末							
	3, 688 (3, 814)	61, 556 (5, 019)	57, 868 (1, 205)	60, 901 (500)							
課 題	・施設配本サービスの利用者の増加に伴い、資料のリクエストに十分に答えられない現状があります。										
今後の取組の方向性	・配本サービスの利用者からのリクエストや教科書の改訂等に合わせて資料を選書・収集し、引き続き良質な資料の充実を図ります。										
評 価 委 員 の 意 見 等	・小規模保育事業所を配本登録団体の対象としたことにより、配本貸出点数が増加しており、施策の効果が表れています。今後も充実を図ってください。 ・小規模保育事業所への配本対象の拡充は有意義であり、貸出数の増加も評価できます。継続のために、多様な資料需要への対応力が必要と考えます。 ・配本サービスはこどもの成長には必要なため、より充実させてほしいです。 ・生徒児童の学習力向上に向けた施設配本サービスがあるのはとても評価します。資料不足などの課題については、古本買取事業者など民間企業との連携も有効だと思います。										

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導 (施策10)	担当課
		学校給食課
内 容	望ましい食習慣や食生活を習得させる食育指導の充実を図るとともに、給食に地元農産物を取り入れ、地元農業や郷土料理などへの関心や、食に対する知識と理解を深めます。	
達 成 状 況	・栄養教諭5人、栄養職員1人が市内各校を巡回し、家庭科や給食の時間などを活用して、カルシウムの大切さなどの栄養バランスや、小牧や愛知の特産物などの食育指導を行いました。 ・学校給食における地産地消については、地元産の食材を取り入れ、地元農業や郷土料理への関心を高める取組を行いました。(センターごとの対応で延べ40回～80回程度実施) ・6月、11月の「愛知を食べる学校給食週間」に加えて、1月の全国学校給食週間に合わせて「小牧を知る学校給食の日」を位置付けし、愛知県産や小牧産の食材を集中して提供して、校内放送や給食だよりを通じ、特産物の由来や栄養面などの指導に努めました。 ・食物アレルギー対応として、できるだけ皆が同じ給食を食べる機会を提供するため10月、1月に特定原材料を除く献立やユニバーサル給食を実施して、食物アレルギーに対する意識付けを行いました。	
課 題	・栄養教諭や栄養職員は学校と給食センターの兼務であるため、指導のための十分な時間をとることが難しい状況です。 ・農産物生産者の高齢化や天候不順などで、供給量や質の安定的確保が年々困難になってきています。 ・食物アレルギーのある児童生徒が増えており、その現状を踏まえた食育、給食指導が必要となっています。 ・物価高騰においても栄養量の確保が必要となります。	
今後の取組の方向性	・栄養教諭や栄養職員による食に関する指導に加えて、他の教職員の食に関する指導や給食委員の啓発に活用できる媒体やポスターなどの作成、配布に努めます。 ・栄養教諭や栄養職員による指導機会の確保のため、ICTの活用を含む効率的な実施方法を検討します。 ・農産物生産者と連絡を密に行い、給食食材の提供可能な時期や供給量を考慮しつつ、学校給食献立作成を進めていきます。 ・学校における食物アレルギー対応に関する市教育委員会としての基本方針を定めるために、食物アレルギー対応委員会を設置して医療機関や消防機関など専門的知見を有する委員のご意見をお聞きする中で、アレルギー対策を推進します。 ・定期的に物価変動に伴う適正な給食費の検討を行います。	

点検評価シート（令和6年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・カリキュラム・マネジメントの視点から、給食や各教科等を関連づけた食育の充実に、今後とも取り組んでください。 ・物価高の昨今、給食費の価格や給食の質の維持には優先的に取り組んでください。 ・地元食材の活用やアレルギー対応など、多様な食育活動が行われている点は先進的であり評価に値します。人的資源の制約に対して、ＩＣＴなどの補完策を検討すべきです。 ・「食育」に関しては、各家庭での日常の食生活の改善が大きく関わっていると思っています。「望ましい食生活」という視点は必要なことですが、同時に「現状からの一部分改善」という視点（ワード）も必要であると感じています。 ・給食試食会を定期的に実施し、児童生徒だけではなく、保護者も給食への理解を深める必要があると思います。 ・食に関する指導について、食育指導を行うレストラン経営者や自然農法を行う農家などの民間事業者へ協力を依頼するなど、少しでも栄養教諭や教職員の負担軽減につながることを期待します。アレルギー対策は保護者側の食に対する意識改革も必要なため、親子で食に関する正しい知識を学ぶ機会も今後増えていくことを期待します。
----------------------------	--

基本目標3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

- 放課後などの学習支援や経済的な支援を充実するなど、一人ひとりのこどもの学びを保障し、教育の質を高めます。
- 学校施設の整備など、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境を整えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	児童生徒に対する学習支援の実施（施策11）	担当課 こども政策課								
内 容	「駒来塾」を開設し、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に、教員OBなどの協力を得て、学習支援活動に取り組めます。									
達 成 状 況	- 令和元年度より全中学校区を対象として、市内4地区で実施し、学校の協力のもと、全生徒に募集チラシを配布するとともに、福祉総務課及び学校教育課と連携し、生活保護世帯、児童扶養手当受給者、就学援助費受給者へ働きかけました。 - 令和3年度より、新規生徒ができるだけ早期に学びの時間を取れるよう、入塾時期を1ヶ月前倒しました。 - 参加している生徒は、ひとり親家庭をはじめ、外国籍、不登校など、それぞれの事情を抱えており、また、学習の理解度に差もあるため、個々の生徒に合わせた個別の学習支援を行いました。 - 参加する生徒や保護者を対象としたアンケート結果から満足度は高く、徐々に勉強する習慣が身についてきている様子が伺えます。また、講師と生徒、生徒同士などの交流により、お互いの成長を育む居場所づくりにもなりました。 - 令和6年度は年間48回開催し、4教室合わせて104人の参加がありました。 - 令和6年度は夏の追加募集期間に中学生を対象とした見学会を実施し、14名の参加があり追加入塾しました。また、駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後、すぐに入塾できるよう、春に小学6年生を対象とした見学会を実施し、7名の参加がありました。 <table><tr><td>開催日等</td><td>毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間48回開催</td></tr><tr><td>参加料</td><td>無料</td></tr><tr><td>対象教科</td><td>数学、英語を中心に5教科</td></tr><tr><td>学習内容</td><td>宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。</td></tr></table> (次の表に続く)		開催日等	毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間48回開催	参加料	無料	対象教科	数学、英語を中心に5教科	学習内容	宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。
開催日等	毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間48回開催									
参加料	無料									
対象教科	数学、英語を中心に5教科									
学習内容	宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。									

点検評価シート（令和6年度実績）

	（前の表の続き） <table border="1" data-bbox="493 288 1370 472"> <tr> <td data-bbox="496 293 651 468">学習体制</td><td data-bbox="651 293 1367 468">各教室とも学習支援員 2～3 人、学習サポーター 2～3 人の体制で、講師 1 人につき生徒 3～4 人を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。</td></tr> </table> 【東部地区】 場 所：東部市民センター学習室・視聴覚室 参加生徒：25 人（篠岡中 7 人・桃陵中 5 人・光ヶ丘中 13 人） 登録講師：10 人（学習支援員 6 人・学習サポーター 4 人） 【北里地区】 場 所：北里市民センター集会室 参加生徒：16 人（北里中 10 人・小牧西中 6 人） 登録講師：7 人（学習支援員 6 人・学習サポーター 1 人） 【味岡地区】 場 所：味岡市民センター視聴覚室 参加生徒：26 人（小牧中 1 人、味岡中 10 人・岩崎中 15 人） 登録講師：10 人（学習支援員 8 人・学習サポーター 2 人） 【小牧地区】 場 所：中部公民館会議室 1・2 参加生徒：37 人（小牧中 19 人・応時中 17 人、小牧西 1 人） 登録講師：18 人（学習支援員 8 人・学習サポーター 10 人）	学習体制	各教室とも学習支援員 2～3 人、学習サポーター 2～3 人の体制で、講師 1 人につき生徒 3～4 人を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。
学習体制	各教室とも学習支援員 2～3 人、学習サポーター 2～3 人の体制で、講師 1 人につき生徒 3～4 人を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。		
課 題	・ひとり親家庭をはじめ、不登校傾向の生徒など、様々な事情を抱えている生徒がおり、継続して参加してもらえるような個々に応じた対応や働きかけが必要です。 ・参加生徒が増加傾向にあるため、より多くの学習支援員や学習サポーターを確保することが必要です。特に、参加生徒に近い年代の大学生等の参加があるといいです。		
今後の取組の方向性	・入塾しやすいよう、令和 7 年度より随時で応募を受け付けます。 ・他会場に比べ小牧会場の生徒が多く、また、応時中学校区から会場までの距離が遠いなどの理由から、令和 7 年度より新たに応時中学校の生徒を対象に南部地区（ふらっとみなみ）へ開設します。 ・生徒への指導方法や運営など情報共有を図るため、定期的に塾長会を開催します。 ・教員を目指す大学生などの学習サポーターを確保するため、大学へのチラシ配布、広報での周知等により、積極的に声かけを行います。		

点検評価シート（令和6年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・入塾時期の工夫や説明会・体験会の導入などにより、参加人数も増えているとのことですので、これからも充実を図って行ってください。 ・こどもの貧困や家庭環境の格差などが叫ばれる今日、様々な地域での「駒来塾」の開設による多くのこどもたちを救う事業は素晴らしいことだと思いますが、様々な家庭による違いから参加できない生徒もいると思います。一人でも多くのこどもたちを支援できる対策の充実を願います。 ・個々の生徒に応じた学習支援が丁寧に行われており、参加者の満足度も高いことがうかがえます。今後は支援人材の安定的な確保が重要な課題です。 ・とてもいい取組のため、継続してください。 ・生徒による学習支援は生徒自身の学習意欲や自己受容につながるため今後も継続的に実施して欲しいです。
----------------------------	---

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本 計画の施策番号)	こども夢・チャレンジ事業の展開（施策13）	担当課																					
		こども政策課																					
内 容	こどもの将来の夢を育むきっかけとして様々な事業を展開します。 ①学習支援事業「駒来塾」 ②プログラミング講座 ③市内産業見学会開催事業 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ⑥こども夢サポーター制度																						
達 成 状 況	・「こども夢・チャレンジNo.1 都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開しました。 ①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策11）を参照 ②プログラミング講座 中部大学と連携し、デジタルのモノづくりを学ぶため、全4回の講座を小学4～6年生を対象に実施しました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th><th>開催日</th><th>参加者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中部大学</td><td>9月28日（土）、10月12日（土）、 10月19日（土）、10月26日（土）</td><td>16人（内訳）4年生 6人 5年生 2人 6年生 8人</td></tr> </tbody> </table> ③市内産業見学会開催事業 小学5・6年生及び中学生を対象に、地元企業などへの愛着を育む機会として、市内企業の見学や職業体験を行いました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>参加者</th><th>見学・体験先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月31日（水）</td><td>15人</td><td>午前：株式会社エースペーカリー 工場見学 午後：千成工業株式会社 工場見学</td></tr> <tr> <td>8月6日（火）</td><td>3人</td><td>三ツ渕保育園（1人）、本庄保育園（2人）</td></tr> <tr> <td>8月7日（水）</td><td>3人</td><td>山北保育園（1人）、小木保育園（2人）</td></tr> <tr> <td>8月9日（金）</td><td>16人</td><td>小牧市民病院 救命処置など</td></tr> </tbody> </table> ④夢にチャレンジ助成金支給事業 25歳以下の高校、大学などの在籍者を対象に、自分の夢を実現するための計画を募集し、公開プレゼンテーションによる審査を行い、優秀者に助成金（上限1件30万円）を支給するものです。 対象者は市内在住、在学の満15歳以上満25歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、グループ単位での応募も可能です。		場所	開催日	参加者	中部大学	9月28日（土）、10月12日（土）、 10月19日（土）、10月26日（土）	16人（内訳）4年生 6人 5年生 2人 6年生 8人	開催日	参加者	見学・体験先	7月31日（水）	15人	午前：株式会社エースペーカリー 工場見学 午後：千成工業株式会社 工場見学	8月6日（火）	3人	三ツ渕保育園（1人）、本庄保育園（2人）	8月7日（水）	3人	山北保育園（1人）、小木保育園（2人）	8月9日（金）	16人	小牧市民病院 救命処置など
場所	開催日	参加者																					
中部大学	9月28日（土）、10月12日（土）、 10月19日（土）、10月26日（土）	16人（内訳）4年生 6人 5年生 2人 6年生 8人																					
開催日	参加者	見学・体験先																					
7月31日（水）	15人	午前：株式会社エースペーカリー 工場見学 午後：千成工業株式会社 工場見学																					
8月6日（火）	3人	三ツ渕保育園（1人）、本庄保育園（2人）																					
8月7日（水）	3人	山北保育園（1人）、小木保育園（2人）																					
8月9日（金）	16人	小牧市民病院 救命処置など																					

点検評価シート（令和 6 年度実績）

また、活動期間は単年度もしくは、翌年度末まで可能です。
令和 6 年度は交付実績がありませんでした。

さらに、この制度を将来活用していただけるよう、その契機として中学生を対象とした夢を語る発表の場「夢にチャレンジ発表会」を開催しました。

応募者	発表者	内容
2 人	2 人	「快適な生活を支える」 「小学校の先生になりたい」

⑤大学生等海外留学奨学金支給事業

海外の大学に、3 ヶ月以上留学しようとする大学生等に、留学先の国や地域に応じて、12 回を上限に、月額 4 万～5 万円を支給しました。

対象者は市内在住の満 15 歳以上満 25 歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、所得基準については、日本学生支援機構の第二種奨学金支給基準を準用しています。

令和 6 年度は 8 件の申請があり、7 件を決定しました。令和 6 年度に留学をし、奨学金を支給したのは 7 件（1,907,168 円）でした。

	人数	留学先
大学生	7 人	ポルトガル、ドイツ、アメリカ、カナダ、フランス

⑥こども夢サポーター制度

市とともにこどもの夢を応援する団体や企業を募り、こども夢サポーターとして登録し、登録証の交付とこまき山ぬいぐるみを贈呈するとともに、市のホームページで各登録者の取組を紹介しました。

【登録数】（各年度末現在）

R6 年度	R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R 元年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度	合計
2 団体	2 団体	1 団体	0 団体	3 団体	4 団体	7 団体	31 団体	26 団体	76 団体

点検評価シート（令和6年度実績）

課 題	①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策11）を参照 ②プログラミング講座 ・こども政策課で実施している別の事業や他部署でも類似の事業を実施していることから、事業の見直しをする必要があります。 ③市内産業見学会開催事業 ・市内企業と調整を図り、安全、安心に実施できる内容とする必要があります。 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ・応募者が少ないため、応募者の増加を図る必要があります。 ⑥こども夢サポーター制度 ・一定数の登録があり、新たな登録申請が少なくなっています。事業の周知を図り、広報などで募集を呼びかけ、知名度を高める必要があります。
今後の取組の方向性	①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策11）を参照 ②プログラミング講座 ・事業の見直しの結果、こども夢・チャレンジ事業として中部大学で実施している講座は令和7年度より廃止します。 ③市内産業見学会開催事業 ・こどもたちが将来の希望や夢を持てるよう、その契機となるような取組や新たな受入れ先の企業を検討します。 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ・引き続き活用内容や制度について広報やホームページ、SNSで周知するとともに、対象世代が集まる場所での公開による、活動の実績報告会を開催します。 ・令和7年度より高校生等が身近な課題や関心事について自らプロジェクトを立ち上げ、課題解決を目指した取組を行う「高校生等社会参画事業」や中学生の「夢にチャレンジ発表会」の効果や社会人留学や語学留学の応募状況などを踏まえるとともに、対象となること

点検評価シート（令和6年度実績）

	も・若者の意見を聞くなど、より効果的な制度となるよう引き続き検討を進めます。 ⑥こども夢サポーター制度 ・ホームページ上や広報にて制度をわかりやすく紹介し、登録のメリットを明確にしていくとともに、こども夢サポーター制度についてあらためて整理し、効果的な制度として活用に向けた検討を行います。
評価委員 の意見等	・「高校生等社会参画事業」を通して、地域の課題に若者の視点から解決に取り組むことに期待しています。 ・④夢にチャレンジ助成金支給事業、⑤大学生等海外留学奨学金支給事業については、小牧市内の各学校へのチラシ配布など積極的な広報周知が必要と考えます。 ・多様な事業展開がなされており、その理念は大変意義深いものです。ただし、応募率の低い事業もあるため、広報活動の工夫が必要です。 ・市制70周年記念式典に参加して、こどもたちがその運営に深く関わっていたことを知りました。こどもが様々な活動に進んで参加することに期待しながら、こどもたちの主権者としての意識の高揚を図り、将来の責任ある大人としての自覚を促すことが大切だと思っています。「こどもの夢を育む」という事は、単に個人的な事だけではなく、地域全体（市・県・国）の発展にも大きく関わることだと思っています。 今後も、市全体の取組を通して「こどもの夢」という視点（ワード）を貫いて欲しいと思っています。 ・こども達が自身の夢に向かってチャレンジし続けるには、伴走型支援が必要だと考えます。他市ではフリーランスや個人事業主、企業が市と連携した取組を行っているところもあるため、より幅広い大人との交流や体験を通じてこども達の社会性育成に励んでいてもらえると有難いです。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	学校施設の改修（施策14）	担当課
		教育総務課
内 容	老朽化・狭あい化が進んでいる米野小学校の改築に向け計画的に事業を進めます。令和5年度に実施した基本設計を基に、実施設計を行います。また、小学校（2校）、中学校（1校）のトイレの洋式化改修工事を実施するなど、学校施設の計画的な改修に取り組みます。	
達 成 状 況	【米野小学校改築】 ・令和5年度に策定した基本設計を基に、実施設計を策定しました。 ・地域住民、保護者、教員、学識経験者等で構成する「米野小学校改築協議会」を2回開催し、そこで様々な意見をいただき、検証しながら、可能な限り市民の意見を実施設計に反映しました。 ・設計会社と米野小学校教員との綿密な打合わせにより、学校のニーズを実施設計に反映しました。 【トイレの洋式化】 ・小学校2校、中学校1校のトイレ改修工事を実施し、トイレを和式から洋式に改修しました。	
課 題	・令和7年度から3ヶ年にわたり予定している米野小学校の改築工事期間中は、教育環境の確保、児童の安全確保をするとともに、周辺住民への配慮した工事計画となるよう努める必要があります。 ・学校トイレの洋式化率は88.5%であり、引き続き洋式化を進めていく必要があります。 ・学校施設全体が老朽化しているため、児童生徒が安全・安心で快適に学校生活を過ごすことができるよう、施設の整備を実施する必要があります。	
今後の取組の方向性	・米野小学校改築工事は、令和7、8年度に校舎、体育館を改築し、令和9年度に既存校舎、体育館の解体及び外構工事を実施します。 ・令和7年度に小学校2校、中学校1校のトイレ改修工事を実施します。 ・老朽化した学校施設の状況を把握し、緊急度の高い箇所から計画的に改修を進めていきます。	
評価委員の意見等	・今後も緊急度の高い老朽化への対応を計画的に進めてください。また、こどもや市民との対話を大切にしてください。 ・令和7年度に予定されている小中学校の体育館にエアコンを設置する計画は、大変素晴らしいことだと思います。最近の異常気象や気候変動により、いわゆる夏の時期が大きく様変わりしており、学校での熱中症対策、地域の避難所としても大変有効であると思います。	

点検評価シート（令和6年度実績）

	・ 市民意見を反映しながら進められている点は高く評価できます。 改修期間中の児童の安全確保と教育環境の維持が課題です。 ・ 米野小学校の改築工事期間中は、その都度、学校や地域などの意見を反映できる仕組みがあるといいです。
--	--

点検評価シート（令和 6 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	I C T機器の整備・充実（施策 1 4）	担当課	
		学校教育課	
内 容	小中学校のアクセスポイント、大型提示装置、小学校の教員用及び一部中学校の生徒・教員用タブレットなどを更新します。		
達 成 状 況	・校務支援用コンピュータとして、小中学校の教職員用のノート P C を更新しました。 ・一部中学校の生徒用タブレット（小牧中・篠岡中・光ヶ丘中）及び全小学校と一部中学校（小牧中・篠岡中・光ヶ丘中）の教職員用タブレットを更新しました。 ・小中学校の特別教室用電子黒板を更新しました。 ・小中学校の教室・校長室・職員室・保健室のアクセスポイントを更新しました。 ・小中学校の普通教室用プロジェクタを更新しました。 ・小中学校の職員室・図書室用のプリンタを更新しました。 ・中学校のプログラミング教材を更新しました。 ・既存の学習 e ポータルのサービス終了を受け、新規学習 e ポータルへの切替えを行いました。 ・児童生徒用タブレット更新を県の共同調達で行うため、補助金申請に必要な各種計画を策定しました。		
	【令和 6 年度の整備機器】		
		小学校	中学校
	教職員用ノート P C	79 台	69 台
	生徒用タブレット	-	1, 165 台
	教職員用タブレット	497 台	96 台
	【端末の配備台数（令和 6 年度末）】（次の表に続く）		
	区分	児童生徒 1 人 1 台分	
		GIGAスクール構想分	パイオニア中学校等先行導入分
	小学校	(iPad) 8,260 台	-
	内 R6 年度更新	-	-
	中学校	(Surface Go2) 3, 082 台	1, 165 台
	内 R6 年度更新	-	1, 165 台
	合計	11, 342 台	1, 165 台

点検評価シート（令和6年度実績）

	(前の表の続き)				
	区分		校務統合系 (図書室含む)	授業用	計
	小学校		725 台	676 台	9,661 台
		内 R6 年度更新	79 台	497 台	(576 台)
	中学校		450 台	405 台	5,102 台
		内 R6 年度更新	69 台	96 台	(1,330 台)
	合計		1,175 台	1,081 台	14,763 台
課 題	- 令和7年度の児童生徒1人1台タブレットの更新に向けて、必要な仕様等を確定し、県の共同調達により事務を進める必要があります。 - 将来の校務情報のクラウドサービス利用を想定し、教育ネットワークの在り方について検討する必要があります。				
今後の取組 の 方 向 性	- 令和7年度のタブレット更新を県の共同調達で行うため、小牧市にとって最適な仕様等を確定させます。 - 令和9年9月の校務支援システム更新に向けて、校務支援システムのクラウド化も含めて、アクセス認証方法及びクラウドへのデータ保存について調査研究します。				
評 価 委 員 の 意 見 等	- 円滑に機器の更新を進め、授業に支障のないようにお願いします。 - 機器の更新が計画的に実施されており、教育現場での ICT 環境の維持に貢献しております。今後はクラウド化への対応準備が重要となります。 - 不正アクセスや情報漏洩に留意しつつ、校務効率化及び教職員の負担軽減につながるよう引き続き進めていただきたい取組です。				

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	新たな学校づくり推進事業（施策14）	担当課
		教育総務課
内 容	学校施設の老朽化や児童生徒数の減少が進む中、将来を担う子どもたちに充実した教育環境を整備するため、学校施設の適正規模・適正配置や、子どもたちにとってより望ましい教育環境の基本的な考え方を整理した「新たな学校づくり推進計画」を、令和6年9月頃に策定します。	
達 成 状 況	- 令和5年度から検討を進めていた「小牧市新たな学校づくり推進計画」（以下「計画」という。）を令和6年9月に策定し、10月に公表しました。 - 策定にあたり、学識経験者や教員、PTA代表等で構成する「小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会（以下、「委員会」という。）」と、市内小中学校の教員等で構成する「小牧市新たな学校づくり推進計画調査検討部会（以下「部会」という。）」の2つの会議体を組織し、意見を聞きながら検討を進めました。 - 令和6年度は、委員会を3回、部会を1回開催し、学校再編に向けた今後の取組などについて検討を行いました。	
	会議名	開催日
	第4回委員会	5月2日（木）
	報告・議題	
	(1) 新たな学校づくり推進計画の策定について （令和5年度のふりかえり） (2) 今後の取組について	
	第3回部会	5月17日（金）
	(1) 小牧市新たな学校づくり推進計画の策定状況について (2) よりよい教育環境をつくるために	
	第5回委員会	6月10日（月）
	(1) 計画（案） (2) パブリックコメントについて	
	第6回委員会	8月21日（水）
	パブリックコメント実施結果について	
	5月23日に東部市民センターで、5月25日に小牧市役所で開催されたタウンミーティングにおいて、教育長より「学校教育を取り巻く課題について」をテーマに、現状と課題、学校再編に向けた考え方などの今後の取組についてお話しし、参加者と意見交換を行いました。 - 検討状況について、ホームページや広報こまきのほか、6月21日の小牧市小中学校PTA連絡協議会情報交換会、6月26日の小牧市区長会地区会長会、6月28日の保護者連絡用アプリを使用しての市内小中学校保護者への一斉配信など、機会を捉えて積極的に	

点検評価シート（令和6年度実績）

	情報発信を行いました。 ・7月10日から8月9日にかけて、計画案に対する意見募集（パブリックコメント）を実施し、28名の方から計60件のご意見をいただきました。また、実施結果を市の考え方とともに9月2日から公表しました。 ・総合教育会議において、計画案とパブリックコメントでいただいたご意見をもとに、市長と教育委員会で意見交換を行いました。 <table><tr><th>会議名</th><th>開催日</th><th>議題</th></tr><tr><td>令和6年度小牧市総合教育会議</td><td>8月30日（金）</td><td>小牧市新たな学校づくり推進計画について</td></tr></table> ・9月24日の定例教育委員会で可決され、計画を策定しました。 ・計画策定後は、早急に学校再編の協議を開始していくことが必要とされた巾下地区、篠岡地区、北里地区の3地区について、話し合いの土台となる学校再編計画の草案づくりを進めました。	会議名	開催日	議題	令和6年度小牧市総合教育会議	8月30日（金）	小牧市新たな学校づくり推進計画について
会議名	開催日	議題					
令和6年度小牧市総合教育会議	8月30日（金）	小牧市新たな学校づくり推進計画について					
課 題	・篠岡地区については、児童生徒数の減少が特に顕著であり、1学年1クラスの学校が急速に増えていく状況にあるため、学校の再編を早期に進める必要があります。 ・学校の再編は、児童生徒とその保護者、また地域の方々に大きな影響があることから、より丁寧に説明する必要があります。 ・学校の再編を行う場合、通学に関することが大きな課題であることから、スクールバスの導入などについて検討する必要があります。						
今後の取組の方向性	・計画に基づき、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化の課題が特に大きい、巾下地区・篠岡地区・北里地区の3地区において、それぞれの地区に「学校を考える会」を立ち上げ、地区別の学校再編計画の策定を進めます。 ・市民の理解を深めるため、検討状況について、ホームページや広報こまき、保護者連絡用アプリなどを通じて広く周知するとともに、住民説明会や講演会などを開催します。						
評価委員の意見等	・児童生徒・保護者・地域住民との対話を重視してください。 ・一方的な説明にならないように、市民の声に応答しながら進めてください。 ・市民参加型で丁寧に進められている点は高く評価できます。学校再編にあたっては、説明責任を果たしながら合意形成を進める必要があります。 ・新設校を開校する場合は、学校区の設定について地区説明会などを通じた関係地区の住民や保護者の納得感が不可欠です。同様に、学校再編についても時を急ぎ過ぎることなく慎重に対応していただきたいと切望しています。						

点検評価シート（令和6年度実績）

	・ 少子高齢化が進む地域では、学校閉校にともない子育て世代の減少や地域コミュニティも失われる懸念があります。そのため新たな学校づくりと共に、新たな地域づくりについても住民の方々と十分に対話を重ねていただきたいと思います。
--	--

基本目標4 家庭・地域・学校との連携による教育の推進

- ④ 家庭教育・地域教育を大切にし、地域ぐるみでの教育、子育て、青少年健全育成活動を展開します。
- ④ 家庭・地域・学校の連携を強化し、学校運営への多様な人材の参画・協力を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	教育・保育の質の向上（施策16）	担当課
		幼児教育・保育課
内 容	第一幼稚園の公開保育、小牧市幼年期教育連携推進会議を通じ幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校の連携を推進し、幼児期からの発達過程に配慮した心の教育の充実に努めます。	
達 成 状 況	・2回の会議と第一幼稚園の公開保育においてこどもの姿から、こどもの“やってみたい”から始まる学びの芽とはどんなものがあるか、こどもたちの育とうとしている力が何に繋がるのか等意見交換をしました。幼保小の接続でのスタート地点である年長児と小学1年生だけでなく、もう少し先を見据えた接続を考える必要があるということを確認しました。 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校の教員と保育士との交流において、こどもたちがそれぞれ幼稚園、保育園、小学校、中学校でどのような活動をしているか把握することで、スムーズでより深い交流が出来ると考え「小牧市幼稚園保育園小学校交流シート」を作成し、試行しています。 ・第2回幼年期教育研修会では、幼稚園、保育園、小学校、中学校の教員と保育士が集まり、地域ごとに分かれ、本市の教育が目指す15歳の姿を想定し、家庭との連携も意識し、こどもの学びの連続性を確保していくことが学びの質向上に繋がっていくことを理解しながら、同じ地域の園、学校の連続した学びの活動や交流活動を考えていきました。	
	会議等の内容	参加人数
	幼年期教育連携推進会議 (2回開催:6月、1月) ○意見交換 ○第一幼稚園の公開保育の振り返り ○今年度の活動のまとめと次年度への提言	6月 委員8 代理1 その他6 計15人 1月 委員10 その他6 計16人
	第1回幼年期教育研修会(7月) 『幼児教育と学校教育の連携』	幼稚園12 保育園17 認定こども園2 小学校47 中学校14 こども未来館1 その他8 計101人
	(次の表に続く)	

点検評価シート（令和6年度実績）

	(前の表の続き)	
	第一幼稚園公開保育(10月) 『主体的に遊びに取り組む幼児の育成』	幼稚園 8 保育園 21 小学校 15 中学校 9 その他 8 計 61 人
	第2回幼年期教育研修会(2月) 『2040年代を展望した教育の在り方:中 教審への諮問に見る接続と質の向上の 課題』	幼稚園 8 保育園 24 認定こども園 3 小学校 18 中学校 7 その他 8 計 68 人
課 題	・こどもたちが未来社会を切り拓くための資質、能力を共有し、連携、協働して育んでいくために、関係機関がお互いの理解を深めながら交流していくことが必要です。そのためには顔の見える関係性を作り、関係機関のこどもたちがどんな活動をして、どんな学びを経験しているか等、情報共有出来る場や実践出来る場を作ることが大切です。	
今後の取組 の方向性	・幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校が連携をすることが重要であるため、講師の招へいや事例検討、公開保育を通して、こどもたちの育ちや学びについての理解を深めていくことが必要です。 ・学校教育課と連携し、幼稚園、認定こども園、保育園における遊びの中での学びがどのように小学校、中学校における教科に繋がっていくのか考え、幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校それぞれの育ちや経験を次へと生かしていくことができるように、交流を深めながら、幼保小の架け橋期のカリキュラム作成などこどもたちの学びの接続に向けたより良い実践方法を検討していきます。 ・今後も関係機関に対し積極的に周知を行い、会議や研修への参加を促していきます。	
評価委員 の意見等	・中央教育審議会の諮問をもとに、小牧市が目指す15歳の姿を想定し、幼稚園・保育園・小学校・中学校の教員・保育士が学びあったことは素晴らしいと思います。このような機会を今後も続けてください。 ・保育園の民営化が進む中、幼稚園教育や保育の質の向上に市がどのように関わっていくのか、やや不安を感じます。 ・公開保育や研修を通じた連携強化の姿勢は評価できます。今後は、より実践的な連携の在り方が求められます。 ・成長や発達段階に応じてこどものしつけや教育の内容は深化します。幼・保・こども園・小中学校の連携については、可能な限りの関係機関との情報の共有から始まると思っています。プライバ	

点検評価シート（令和6年度実績）

	シーの問題で関わり方の限界を判断するのではなく、当事者としてのこどもたちの将来を考える中での解決可能な視点をさぐり当てて、協議を深めていただきたいと思います。 ・自主的・主体的な学びを深める上でとても評価できる取組だと思います。ぜひ児童生徒や教員だけではなく、保護者にも、教えながら共に育つ「教&共育」へとつなげていただきたいと思います。
--	--

点検評価シート（令和 6 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課		
放課後子ども総合プラン（施策１８）		こども政策課		
内 容	放課後児童クラブと放課後子ども教室が連携して、共通プログラムを企画・運営する仕組みづくりを推進します。令和３年度に市内２小学校で実施したモデル事業の評価・検証を踏まえ、令和４年度は６校、令和５年度は１２校で実施し、令和６年度より全校で実施します。			
達 成 状 況	・ 市内全小学校（１６校）で合同の体験活動を実施しました。			
	学校名	年間実施回数 主な内容	参加人数（延べ） 放課後子ども教室 児童クラブ	
	小牧小学校	５回 折り紙、人形劇、観劇	９０人	８４人
	村中小学校	３回 モザイクタイル工作、ミニ運動会	６８人	４３人
	小牧南小学校	３回 オカリナ演奏会、忍者ランド	５３人	１４３人
	三ツ淵小学校	５回 万華鏡、己書、段ボール工作	９５人	１８人
	味岡小学校	６回 交通安全教室、忍者ランド、すまいるまつり	１１９人	３５３人
	篠岡小学校	７回 人形劇、トランポリン、クリスマスコンサート	１５２人	２０３人
	北里小学校	４回 交通安全教室、シナプソロジー	１１４人	１１０人
	米野小学校	４回 １万個の積み木、コンサート	９０人	１２７人

点検評価シート（令和 6 年度実績）

学校名	年間実施回数 主な内容	参加人数（延べ）	
		放課後子ども教室	児童クラブ
一色小学校	7 回 レクリエーション、 盆踊り、和太鼓	120 人	127 人
小木小学校	4 回 防災教室、人形劇	77 人	88 人
小牧原小学校	4 回 防災教室、リトミッ ク	127 人	136 人
本庄小学校	7 回 交通安全教室、着衣 水泳、ギターコンサ ート	211 人	37 人
桃ヶ丘小学校	5 回 おはなし会、冬のコ ンサート	43 人	159 人
陶小学校	6 回 コンサート、人形 劇、忍者ランド	133 人	43 人
光ヶ丘小学校	4 回 大道芸、パステルア ート、読み聞かせ	77 人	86 人
大城小学校	4 回 トランポリン、忍者 ランド、太鼓を体験 しよう	68 人	45 人

・児童館と積極的に連携し、創作活動などを行いました。

・実施校全体による情報交換会を開催し、放課後子ども教室と児童クラブ従事者の連携や他校の活動内容や講師の活用等の情報を共有しました。

・小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会において令和 6 年度事業の評価・検証を行い令和 7 年度以降の事業計画を検討しました。

点検評価シート（令和6年度実績）

		回数	実施日	主な議題等
		第1回	6月28日（金）	放課後子ども総合プランについて 実施校のスケジュールについて 関係者アンケートについて
		第2回	2月17日（月）	令和6年度事業について 令和7年度以降について
		・全校での実施に伴い、令和6年度をもって小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会を閉会しました。		
課	題	・すべての児童が放課後子ども総合プランに参加できる環境とすることは、現在の従事者や活動場所の確保の状況においては困難ですが、参加を希望する児童ができるだけ多く参加できるよう、活動場所と放課後子ども教室と児童クラブそれぞれの従事者の確保に向けた対策が必要です。 ・配慮が必要な児童が増えているため、総合プランの活動での配慮が必要な児童への対応について、従事者が相談したり、アドバイスを受けられる体制や従事者への研修が必要です。 ・保護者や児童のニーズや関心事に基づく活動内容とすることが必要です。 ・学校再編後も総合プランの活動が継続できるよう、今後、関係部署と連携を図り進める必要があります。		
今後の取組	の方向性	・「放課後子ども総合プランコーディネーター」を中心に、事業運営の改善を図りながら、どの小学校も無理なく進められるよう引き続きサポートしていきます。 ・配慮が必要な児童への対応について、従事者向けの研修を行うとともに、相談できる体制を整えます。 ・アンケートでの保護者や児童のニーズを基に、今まで実施していなかった内容についても実施できるよう検討します。		
評価委員	の意見等	・こども・保護者の意見をもとに、実施体制の充実を続けてください。 ・どのような配慮が求められているのかのニーズを把握整理し、付加していくべきスタッフの専門性について議論を進めてください。 ・地域の中には、現役時代に様々な才能・技術を有していた人材が多くいます。そうした人材を発掘し、放課後子ども教室に招へいし、リタイア後も地域で有効活用できる取組を期待します。 ・全校実施に至った点は大きな成果であり、多様な活動内容も評価できます。支援員の確保と専門性向上が課題です。		

点検評価シート（令和6年度実績）

	・市内の全小学校において、放課後子ども教室と児童クラブが共通プログラムで実施されるようになったことは、望ましい方向性だと思います。放課後のこどもたちの過ごし方は多様ですが、その大きな選択肢の一つとして本事業が広く定着することに期待しています。 ・ぜひ継続してください。ただし、スタッフ等の負担が増えないようにしていただきたいです。 ・共働き世帯にとっては家庭以外で交流や学びがある場はとてもありがたいです。コーディネーターさんや地域住民の方々、PTA など時間的余裕のある保護者の方、団体からの協力、地元企業との連携など、より多くのこども達に参加できるよう整備を進めていただけると嬉しいです。
--	--

基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

- ☞ 誰もが、学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境を整備します。
- ☞ 自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学びあい育ちあう関係を創出します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民講座の実施（施策２１）	担当課		
		文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター		
内 容	公募により市民が主体となつて行う市民企画講座を実施するとともに、多様な分野の学習機会を提供するために、各公民館の企画による市民講座を実施します。			
達 成 状 況	・下記の講座を実施しました。 【公民館企画講座】			
	公民館名 (講座数)	回数	延べ 受講者数	
	市公民館等 (15 講座)	28 回	人工知能、発酵食、羊毛フェルト、 プロジェクションマッピング、小牧宿、 紫式部日記、庭木に花（①春夏 ②秋冬）、Zoom、スクリーンプリント、 俳句、川柳、短歌、健康プロジェクト、 資産形成	712 人
	東部市民 センター (7 講座)	13 回	サークル活動体験、料理、製菓、大 正琴	126 人
	味岡市民 センター (3 講座)	10 回	レクリエーション、ツボマッサー ジ、背骨コンディショニング	95 人
	北里市民 センター (4 講座)	4 回	絵手紙・ハワイアンキルト・シナプ ソロジー・ハーモニカ	15 人

点検評価シート（令和6年度実績）

	【市民企画講座】				
	公民館名 (講座数)		回数	内容	延べ 受講者数
	市公民館等 (16 講座)		76 回	中学英語、パステルアート、アレン ジメントフラワー、ポーセリンペイ ント、トーン・チャイム、世界の歌、 ヨガ、シニアリトミック、プログラ ミング、マネーの基礎講座、はじめ ての日本画、陶芸体験、ボイストレ ーニング、ジョギング、バランスボ ール、お片付け	961 人
	東部市民 センター (5 講座)		20 回	フラダンス、相続・葬儀、オーナメ ント、ケーナ、麴	390 人
	味岡市民 センター (9 講座)		39 回	歌舞伎、バランスボール、ウクレレ、 足もみ、己書、歴史、金融、ギター、 整理整頓	739 人
	北里市民 センター (6 講座)		26 回	絵手紙・ヨガ・料理・ 水彩画・耳ツボ・発酵食	296 人
	◆市民講座年度別実績				
	項目		R6 年度	R5 年度	R4 年度
	市公民館等	延べ受講者数	1,673 人	2,251 人	1,733 人
		講座数	31 講座	33 講座	37 講座
	東部市民 センター	延べ受講者数	516 人	624 人	536 人
		講座数	12 講座	15 講座	14 講座
	味岡市民 センター	延べ受講者数	834 人	570 人	677 人
		講座数	12 講座	10 講座	10 講座
	北里市民 センター	延べ受講者数	311 人	410 人	406 人
		講座数	10 講座	10 講座	8 講座
課 題	・ 講座内容によっては若い方の参加者もありますが、全体的に高齢 の受講者が多い傾向が続いています。 ・ 市民企画講座の講座内容が固定化している傾向があります。 ・ W E B 申込が浸透し、気軽に申し込む人が増えた反面、申込者が 多く抽選になった講座で欠席やキャンセルが多い傾向がありま す。				

点検評価シート（令和6年度実績）

今後の取組 の方向性	・開催日時、講座内容、託児等を工夫して、若い方にも参加していただけるよう努めます。 ・ワクティブこまき等とも連携し、新規の講師を増やすよう努めます。 ・実績からオンラインの親子講座については、キャンセル率が高いため、補欠を増やす等定員割れしない工夫を行います。
評価委員 の意見等	・若い方の参加を増やす工夫を、今後お願いします。 ・各講座、ジャンルごとのキャンセル率を算定し、今後の定員設定などに活かしてください。 ・講座の多様性と市民参加型の構成は好ましく、学びの場としての価値が高いです。学びの成果を地域に還元する工夫が必要です。 ・地域のサロン活動は、自主的で気軽な活動として市内全域に広がってます。また、多くの市民活動団体の活動や生涯学習団体の活動、さらにはスポーツ振興会、地域協議会のような地域の組織的な活動などもあります。それらの活動を総合的に捉えて、高齢者に限らず生きがいを求めて生活する人たちのニーズに対応するために、行政の横断的視点の中で、幅広い市民活動の選択肢が得られるような仕組み作りがあるといいと思っています。 ・子育てや若年層世代のニーズを把握し、より幅広い層の方に参加いただける企画を充実させてください。気軽に受講できるという考えで申込みする方も多いと思いますので、講座によっては事前支払いによるキャンセル規定を設けることなど対策が必要だと考えます。 ・市が関与する学習機会のみならず、幅広く市民が生涯学習に接することができるよう、実態を把握し、それを高められることを考えていくことが大切です。 ・近年、世の中に溢れている情報の信用性が話題となっているため、メディアリテラシーなどについての講座も開催していただきたいです。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	公民館等の生涯学習施設の環境整備 (施策21)	担当課
		文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター
内 容	施設老朽化などに対応し、施設設備の改修を行います。また、文化活動や学びの拠点である市公民館の展示場などについて、展示機能の充実など多様なニーズに対応できるよう、改修・更新工事を行います。	
達 成 状 況	市公民館 【市公民館大規模改修工事】 ・老朽化が進む市公民館トイレ、講堂舞台機構、講堂天井等の改修工事を行いました。 ・展示場・講堂の展示機能の拡充を図るとともに、音楽スタジオ2を設置しました。 ・隣接する市民会館の改修も併せて行い、一体化した整備を行いました。 【鳥よけネット取付工事】 ・糞害対策として、南面と西面のバルコニーに鳥よけネットを設置しました。 中部公民館 【中部公民館冷温水発生機等更新工事】 ・中部公民館及びプラネタリウムの冷温水発生機、冷却塔等の更新工事及び保育室の個別空調化を行いました。 味岡市民センター 【味岡市民センター冷温水発生機更新工事】 ・老朽化していた冷温水発生機（1・2）号機の更新工事を行いました。 【味岡市民センター空調改修工事】 ・老朽化していた映写室等の空調機の改修工事を行いました。 東部市民センター 【受変電設備等改修工事】 ・竣工から35年が経過し更新時期を迎えた自家発電機の更新および受変電設備機器の改修工事を行いました。 【駐車場補修工事】 ・著しく経年劣化していた敷地内西側及び児童館側の駐車場舗装等を補修する工事を行いました。	

点検評価シート（令和6年度実績）

	北里市民センター 【外壁等改修工事】 ・老朽化に伴い外壁タイル及びタイル目地シーリング等の改修工事を行いました。
課 題	・小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、目標耐用年数まで快適に施設を利用できるように計画的な改修や、利用者アンケートなどを参考に多様なニーズに対応できるように改修していく必要があります。 ・施設の利便性が向上するよう機能の充実についても検討する必要があります。
今後の取組 の 方 向 性	・公民館を安全・安心、また、快適に利用していただけるようきめ細かな施設の保守管理に努めます。
評 価 委 員 の 意 見 等	・計画的に施設の整備への取組をお願いします。 ・計画的に改修が進められており、安全性・利便性の向上に寄与しています。利用者の声を継続的に反映する仕組みが必要です。 ・継続して取り組んでください。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	生涯学習を推進する人材育成講座の開催 (施策22)	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	学びの成果を地域活動などにつなぐため、人材育成のための講座の開催や、地域協議会などと連携し、地域の生涯学習活動のきっかけづくりや活性化に取り組みます。	
達 成 状 況	・下記の講座を実施しました。	
	【組織で役立つコミュニケーション】	
	開催日	2月16日(日)
	会場	市公民館 視聴覚室
課 題	受講者数	26人
	・小牧市教育振興基本計画評価指標の「生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合」について、コロナ禍である令和3年度の28.2%に対してコロナのピークが過ぎた令和5年度は34.0%とまだ低い割合であるため、活動に関わる人を増やすことが必要です。	
	・学んだ成果を地域活動で活かしていけるよう、ワクティブこまきや地域のサロン等と連携して活動の機会や場所の創設、橋渡しに努める他、人材の発掘に努めます。	
	・地域の生涯学習活動に寄与したい人たちに向けて、活動事例等の情報提供や交流の機会となる場の提供を検討します。また、地域の活動の場に生涯学習講師の紹介を行うなど連携を進めていきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・コミュニケーションは、関心が高いテーマだと思います。生涯学習活動に取り組んでみようという方を後押しする支援を今後も続けてください。	
	・地域ニーズに沿った内容で、受講者の満足度も高いと推察されます。受講後の活動支援体制の充実が求められます。	
	・引き続き市民が個人の専門性やスキルを活かせる機会として参加者拡大に向けた取組をお願いします。講座以外にも、個人や団体、企業などが必要なときに依頼できるよう、人材バンクとして窓口があると利用しやすくなると思います。	

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	電子図書館の充実（施策２３）	担当課		
		図書館		
内 容	「こまきデジタル・コレクション」にて一般公開している電子書籍化した郷土資料の特集コーナーを、電子図書館内に新設します。			
達 成 状 況	・下記のとおり電子図書館内に郷土資料の特集コーナーを設け、PRに努めました。			
	特集コーナー設置実績			
	7月～9月 兵どもが夢の跡			
	10月～12月 昔を巡る			
	1月～3月 象山文庫こまき絵葉書だより			
	こまき電子図書館の内、こまきデジタルコレクション 閲覧数			
	対前年度末増減	令和６年度末	令和５年度末	令和４年度末
	2,850	13,567	10,717	8,590
	こまき電子図書館の内、電子書籍（＝上記以外） 貸出数			
	対前年度末増減	令和６年度末	令和５年度末	令和４年度末
81	4,249	4,168	3,209	
課 題	・電子書籍のタイトル数が少ないため、電子図書館の認知度が高まっているにもかかわらず、利用者の増加が抑制されている現状があります。 ・また、主に高齢者を中心としたスマートフォンやＰＣの利用に馴染みのない利用者層において、電子図書館の利用が進みづらい現状があります。			
今後の取組の方向性	・利用者の興味を引く郷土資料のデジタル化を進め、特集コーナーを定期的に更新することで、コーナーの鮮度を維持するとともに、引き続き電子図書館の資料の充実を図ります。 ・他方、高齢者等に対しては出前講座等を通じて電子図書館へのアクセス方法を周知することで、デジタルデバイドを解消するとともに電子図書館の利用拡大を図ります。			
評価委員の意見等	・図書館に来館しにくい方にとって電子図書館は本に触れる重要な機会になります。今後の拡大を期待します。 ・学校の探究学習での活用なども見据えて学校や子どもなどへの周知も行ってください。 ・特集展示など利用促進に向けた工夫が見られます。今後は蔵書数の拡充と高齢者への支援が課題となります。 ・課題にもあるように、スマートフォン等の利用に馴染みのない高齢者を中心とした利用者層にも、電子図書館を利用していただけると期待します。			

点検評価シート（令和6年度実績）

	・電子図書館の利用者増加には、周知が非常に重要となるため、様々な周知方法を検討していただき、取り組んでいただきたいと思います。
--	---

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携（施策２４）	担当課 文化・スポーツ課
内 容	ワクティブこまきと連携して、生涯学習をきっかけに、地域活動などへつながる取組を推進します。	
達 成 状 況	・下記の項目を実施しました。	
	項目	内容
	人材育成講座の連携開催	小牧市内で市民活動・生涯学習活動を行っている人、これから行おうとしている人を対象に、活動を活性化したり、スキルアップをはかるための講座を開催【組織で役立つコミュニケーション(２月１６日)26人参加】
	こまき団体情報ガイドブックの活用	市内を活動拠点とする生涯学習団体や市民活動団体の総合データベース。ワクティブこまきが運営しているが、団体情報の収集や市民への情報提供を各公民館でも行っている。
	講師情報の共有	生涯学習市民講師データの共有（相互で人材発掘したデータの一元化）
	こまなびフェスティバルへの参加	ワクティブこまきのこまなびフェスティバル参加(企画運営、広報等のPR、舞台設営 等)
課 題	・市民活動団体や生涯学習団体の活動を活性化するため、団体同士の情報交換や意見交換ができる機会を増やす必要があります。 ・一人ひとりのニーズに合う団体と繋がることができるよう、サポートやコーディネートが必要となります。	
今後の取組の方向性	・団体同士が意見交換をしたり、情報共有をできるような場づくりに取り組みます。 ・ボランティア活動、地域活動、生涯学習など、あらゆる情報が集積されているワクティブこまきと連携して、ニーズに対応するよう取り組みます。	
評価委員の意見等	・多世代交流の実現に貢献しており、施設の活用度も高いと評価できます。若年層の利用促進が望まれます。 ・少人数で結成している団体は人手不足で活動内容や時間に制限があったり、資金調達の課題を抱えていたりするため、同じ活動内容の団体同士が情報を交換し合ったり互いに助け合える機会が増えるようサポートが必要だと考えます。	

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

- ④ 運動やスポーツを通して、あらゆる活動の土台となる基礎体力を育みます。
- ④ 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課			
スポーツ教室の開催（施策２５）		文化・スポーツ課			
内 容	小牧市スポーツ協会や加盟競技団体などと連携して市民スポーツ教室を開催し、広く市民がスポーツに親しみながら健康や体力を増進する機会を提供します。				
達 成 状 況	・スポーツ協会に加盟する競技団体及び小学校区スポーツ振興会などの地域スポーツ団体並びに市やスポーツ協会が様々なスポーツ教室を開催し、市民がスポーツを始め、それぞれのライフスタイルに応じて継続してスポーツに取り組むことができる機会の提供に取り組みました。 ・また、これらのスポーツ団体に対し、助成金等の支出や市内のスポーツ施設及び学校体育施設の優先貸出といった各種支援を実施することで、市内のスポーツ団体の活性化に取り組みました。				
		【スポーツ協会主催】	R6 延べ人数	R5 延べ人数	R4 延べ人数
	1	テニス（前期）	168	85	135
	2	テニス（後期）	180	132	109
	3	卓球（前期）	255	248	204
	4	卓球（後期）	257	250	211
	5	バドミントン（前期）	122	169	93
	6	バドミントン（後期）	139	118	126
	7	ランニング	—	11	中止
	8	ミニテニス	52	40	—
	9	ミニトランポリン（前期）	19	—	—
	10	ミニトランポリン（後期）	9	—	—
		【市主催】			
	1	いきいきシルバースポーツ学級	435	430	422
	2	ノルディックウォーク講習会（１）	22	18	33
	3	ノルディックウォーク講習会（２）	15	23	23
		合計	1,673	1,524	1,356
	※ランニング教室は R5 まで実施				
	※ミニトランポリンは R6 からの新規事業				

点検評価シート（令和6年度実績）

課 題	・指標（R5）において、「健康づくりのためにスポーツに取り組む必要があると考えている」が86.4%となっているのに対して、「週1回以上適度な運動をしている」では57%とギャップが生じている中で、R6のスポーツ教室参加者数は前年に比べて減少傾向にあります。 ・スポーツ団体の多くが少子高齢化の影響などによる会員数の減少、指導者不足等の問題を抱えています。
今後の取組の方向性	・運動に取り組む方法は様々ですが、市としては、市民の健康増進や地域の交流に対する意識・意欲の向上を図りながら、学校、スポーツ団体、家庭及び地域との連携をより密に図り、スポーツ教室などのスポーツを実践する機会の拡充に努めていきます。
評価委員の意見等	・市民が気軽にスポーツに親しめるような機会を増やしてください。 ・健康増進と交流促進に大きく貢献しており、世代を超えた取組として評価できます。講師や運営の持続可能性に配慮が必要です。 ・健康増進のためにスポーツを取り入れることの必要性は理解しても、活動の実態が伴っていないというデータがあります。組織や団体での活動ではなく、気軽に個人的な活動を好む傾向は、健康志向の中でも同様で、民間の健康維持増進施設やスポーツ関係施設が増加傾向にあるのはその証明であると思います。集約が困難であっても、小牧市ウォーキングアプリ「a l k o」への登録者や一般市民への意識調査などを通して、日常のライフスタイルの中での健康意識の状況把握をすることも必要であると思います。 ・各小学校で実施しているスポーツ教室を、広く情報発信を行い、周知していく必要があります。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こども対象のスポーツ教室の開催（施策26）	担当課 文化・スポーツ課			
内 容	こどもたちが幅広くスポーツに親しむため、小牧市スポーツ協会や加盟競技団体などと連携し、各種目のスポーツ教室を実施します。				
達 成 状 況	・ こどもの体力・運動機能の低下が問題視される中、早い時期から運動に触れ、運動を好きになり、様々な年代のこどもたちと触れ合いながら心身を健全に発育させることを目的にスポーツ教室を開催しました。				
	・ 親子ふれあい体操教室、小牧市スポーツ協会主催のジュニア体操教室などを開催し、こどもたちが楽しくスポーツに親しむ機会を提供しました。				
		【スポーツ協会主催】	R6 延べ人数	R5 延べ人数	R4 延べ人数
	1	あそび親子運動	74	58	62
	2	かけっこ	47	19	56
	3	小学生初心者水泳	224	209	129
	4	ジュニア体操（寺本明日香） （第1回）	55	57	59
	5	ジュニア体操（寺本明日香） （第2回）	57	53	47
	6	ジュニア体操（寺本明日香） （第3回）	88	86	88
	7	ジュニア育成事業	28,134	28,397	28,036
	8	スポーツクリニック（バレーボール、ソフトボール）	395	257	518
		【市主催】			
	1	親子ふれあい体操教室 （Ⅰ期）	357	380	272
	2	親子ふれあい体操教室 （Ⅱ期）	199	248	284
	3	親子ふれあい体操教室 （Ⅲ期）	236	—	—
	4	わいわいキッズ New スポーツフェスタ（小牧市スポーツ推進委員連絡協議会との共催）	188	370	400
		合計	30,054	30,134	29,951
	※ジュニア体操第1回、第2回はこどものみ対象。第3回は親子対象。				
	※スポーツクリニックはウルフドッグス名古屋・クインシーズ刈谷				

点検評価シート（令和6年度実績）

	（バレーボール）、東海理化チェリーブロッサムズ（ソフトボール）にて実施。
課 題	・ジュニア育成活動についても指導者不足が課題となっています。 ・今後、学校部活動の地域クラブ化への検討を踏まえながら、こどもがスポーツに親しむ機会の質と量の確保を図る必要があります。
今後の取組 の 方 向 性	・課題を踏まえ、スポーツ協会や教育委員会と連携し、スポーツ教室の在り方等を検討していきます。
評 価 委 員 の 意 見 等	・地域部活動への接続・協働も模索してください。 ・こどもたちが運動を楽しみながら健やかに育つための貴重な機会を提供している点を高く評価します。今後は、指導者確保や継続的な参加につながる工夫が求められます。 ・こどもだけではなく、親子で参加出来る内容がさらに充実すれば、参加者が増加すると思います。 ・以前と比べて、各学校の部活動が減少していますが、ジュニアスポーツに参加しないこどもも増えていると感じています。指導者育成など人材確保は早めに対策していただきたいです。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本 計画の施策番号)		担当課										
地域部活動の検討（施策 2 6）		学校教育課 文化・スポーツ課										
内 容	本市における部活動の望ましいあり方を検討するとともに、将来にわたって小牧市のこどもたちが文化・スポーツに継続して親しむことができる機会を確保するため地域と連携して環境の整備に取り組みます。											
達 成 状 況	・ 学校部活動の地域連携・地域展開を検討するため、小中学校部活動検討委員会モデル校情報交換会を開催しました。											
	<table><tr><th>会議名</th><th>開催日</th><th>議題</th></tr><tr><td>小中学校部活動 検討委員会モデル校情報交換会</td><td>5 月 13 日、10 月 16 日、 11 月 14 日、12 月 3 日、 1 月 9 日、2 月 14 日、 3 月 17 日</td><td>・令和 6 年度モデル校の取組について ・令和 7 年度以降の取組について</td></tr><tr><td>小中学校部活動 検討委員会</td><td>2 月 21 日</td><td>・令和 6 年度の取組について ・今後の取組について</td></tr></table>			会議名	開催日	議題	小中学校部活動 検討委員会モデル校情報交換会	5 月 13 日、10 月 16 日、 11 月 14 日、12 月 3 日、 1 月 9 日、2 月 14 日、 3 月 17 日	・令和 6 年度モデル校の取組について ・令和 7 年度以降の取組について	小中学校部活動 検討委員会	2 月 21 日	・令和 6 年度の取組について ・今後の取組について
	会議名	開催日	議題									
	小中学校部活動 検討委員会モデル校情報交換会	5 月 13 日、10 月 16 日、 11 月 14 日、12 月 3 日、 1 月 9 日、2 月 14 日、 3 月 17 日	・令和 6 年度モデル校の取組について ・令和 7 年度以降の取組について									
	小中学校部活動 検討委員会	2 月 21 日	・令和 6 年度の取組について ・今後の取組について									
※令和 6 年度モデル校における成果												
・ 令和 5 年度の小牧中、桃陵中の 2 校に、小牧西中、篠岡中、光ヶ丘中の 3 校を加え 5 校をモデル校としました。												
・ 桃陵中、光ヶ丘中、篠岡中の 3 校間において、休日は合同で野球部の活動を行い、野球部がない篠岡中からも希望者が参加をしました。夏の中学校大会には合同チームとして参加をしました。												
課 題	・ 令和 5 年度に桃陵中バスケットボール部に篠岡中の 3 年生の生徒が休日の部活動に参加し、夏の中学大会に参加することができました。今年度も桃陵中バスケットボール部の休日の部活動に、篠岡中の 2 年生の生徒が参加をしました。											
	・ 生徒数の減少等により学校単位の部活動を維持していくことが困難な状況にあります。											
	・ 地域連携をどのように進めるか、枠組みを検討する必要があります。											
	・ 地域における指導者の量を確保する必要があるとともに、指導者の質を高めていく必要があります。											
	・ 活動場所、用具の確保、責任の所在、受益者負担（保険料や指導員の謝礼等）などについて、検討をする必要があります。											

点検評価シート（令和6年度実績）

今後の取組 の方向性	・国、県の動向及び近隣市町村の状況を把握するとともに、小牧市として部活動の地域連携・地域移行の方向性を示します。 ・令和6年12月に実施した教員、保護者、児童生徒へアンケートを分析し、今後の方向性を検討するための材料とします。 ・令和6年度に引き続き5校をモデル校とし、小牧中、小牧西中の2校、桃陵中、篠岡中、光ヶ丘中の3校のそれぞれのエリアにおいて種目により会場を指定します。休日は地域連携部活動としての活動を進めていきます。
評価委員 の意見等	・学校部活動の地域連携・地域展開を進めるにあたり、効果・課題を、児童生徒の立場、教員の立場、地域の立場から検証し、ノウハウやベストプラクティスの蓄積や共有が求められます。 ・指導者の質の確保、保護者負担の軽減、児童生徒の安全管理の観点を特に重視してください。 ・モデル校での試行を通じた丁寧な導入が見られ、今後の全市的展開に期待が持てます。地域連携の体制整備が鍵となります。 ・働き方改革を契機として、特に、中学校部活動の今後のあり方が具体的に示されています。定着するまでには、様々な多くの課題があると思いますが、従来の学校部活動の位置づけやその考え方を改めることを通して、地域で支える部活動として子どもたちの活動欲求に対応した体制が定着することを期待します。 ・小中学校の部活は教員だけではなく、外部の指導者等と連携することで、教員の負担が軽減することを期待します。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	パークアリーナ小牧などを活用した大会等の誘致（施策２７）		担当課 文化・スポーツ課	
内 容	小牧市スポーツ協会と連携し、ＳＶリーグ等のプロチーム等の試合を誘致し、多くの市民に国内トップレベルの競技を観戦する機会を提供します。			
達 成 状 況	・市民が日本トップレベルの選手のプレーを身近に感じ、生の感動を味わうことで、スポーツへの関心を高めてもらうことを目的に、大規模な大会等の試合を観戦する機会を提供しました。			
		【スポーツ協会】	対戦カード	観戦者数
	1	JD. LEAGUE（女子サッカー）	6月8日（土） 豊田自動織機シャイニングベガ vs 日立サンディーバ、東海理化チェリーブロッサムズ vs NEC プラットフォームズファルコンズ	1,372
	2	JD. LEAGUE（女子サッカー）	6月9日（日） 豊田自動織機シャイニングベガ vs NEC プラットフォームズファルコンズ、東海理化チェリーブロッサムズ vs 日立サンディーバ	1,148
	3	SV. LEAGUE（女子バレーボール）	11月30日（土） クインシーズ刈谷 vs 東レアローズ滋賀	1,034
	4	SV. LEAGUE（女子バレーボール）	12月1日（日） クインシーズ刈谷 vs 東レアローズ滋賀	1,128
(次の表に続く)				

点検評価シート（令和6年度実績）

(前の表の続き)			
5	F. LEAGUE ファイナルシーズン（男子フットサル）	2月14日（金） シュライカー大阪 vs ボルクバレット北九州、Y. S. C. C 横浜 vs バサジィ大分、しながわシティ vs ペスカドーラ町田、名古屋オーシャンズ vs バルドラード浦安	8,988 (2/14～16の3日間の合計)
6	F. LEAGUE ファイナルシーズン（男子フットサル）	2月15日（土） フウガドールすみだ vs ボルクバレット北九州、バサジィ大分 vs ヴォスクオーレ仙台、シュライカー大阪 vs Y. S. C. C 横浜、立川アスレチック FC vs 湘南ベルマーレ	
7	F. LEAGUE ファイナルシーズン（男子フットサル）	2月16日（日） フウガドールすみだ vs ヴォスクオーレ仙台、ペスカドーラ町田 vs 湘南ベルマーレ、名古屋オーシャンズ vs 立川アスレチック FC、バルドラール浦安 vs しながわシティ	
8	SV. LEAGUE（男子バレーボール）	3月1日（土） ウルフドッグス名古屋 vs 広島サンダース	2,640
9	SV. LEAGUE（男子バレーボール）	3月2日（日） ウルフドッグス名古屋 vs 広島サンダース	2,584
	【市】		
1	小牧市制 70 周年記念事業 プロ野球オープン戦	3月14日（金） 中日ドラゴンズ vs 埼玉西武ライオンズ	6,616
	合計		25,510
課 題	・令和8年度のアジア競技大会（パークアリーナ小牧でバレーボール競技を予定）を盛り上げるため、今後特にSVリーグの誘致については運営チーム及び団体と連携・協力を図っていく必要があります。 ・子ども達に試合でのコートオフィシャルや選手エスコートなどの機会を提供し、スポーツの楽しさや素晴らしさを知ってもらう必要があります。		

点検評価シート（令和6年度実績）

今後の取組 の方向性	・アジア競技大会の機運醸成のため、SVリーグの運営チーム及び団体と調整を行います。 ・大会を誘致した場合は引き続き小・中学生を対象としたクリニックを実施してもらうようチーム等に働きかけるなど、こども達が日本トップレベルの技術を身近で感じることができるよう努めます。 ・また、市民が選手と交流できるようチーム等に働きかけます。
評価委員 の意見等	・国内トップレベルの試合を市民が観戦できる機会が提供されており、スポーツへの関心の高まりが期待できる事業であると評価します。アジア競技大会に向けた継続的な広報や市民参加型の企画強化が求められます。 ・令和8年度に迫ったアジア競技大会は、本市ではバレーボール競技が開催されます。その中で、現在大会開催の広報活動やボランティア募集などの諸準備が進められています。今後、大会開催の認知度を高めることを始めとして、大会の盛り上がり期待しています。

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	スポーツ施設の環境整備（施策28）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	利用者が市内のスポーツ施設を良好かつ安全に利用できるよう、スポーツ施設の適切な維持改善、計画的な改修を行います。	
達 成 状 況	・工事が順調に進むよう、施工業者及び関係課と連携を取りながら、工事の監理・監督を行いました。また、アジア大会に向けて総合体育館のトイレ改修、バリアフリー化、音響設備、照明環境制御システム改修工事の設計を行いました。 ○総合体育館 ・二酸化炭素消火設備取替修繕 ・排煙窓修繕 ・トイレ改修、バリアフリー化工事設計委託（R7 施工予定） ・音響設備、照明環境制御システム改修工事設計委託（R7 施工予定） ・管理棟空調機更新工事（予定工期 2/20～6/19） ○さかき運動場 ・多目的グラウンド供用開始（5/2～） - フットサル兼テニスコート 2 面 - ゴムチップウレタン弾性舗装（ハードコート） - 附属設備：ナイター照明 8 基、防球ネット 5m ○総合運動場 ・会議室空調設備更新工事 ・受変電設備改修工事	
課 題	・運営上のトラブルなどを事前に想定し、限られた人数でも円滑に運営ができるような体制を整えておく必要があります。 ・施設が全体的に老朽化しており、施設運営においては故障する前の予防整備が重要です。	
今後の取組の方向性	・利用者の方が安心して利用できるよう、運営する小牧市スポーツ協会や市の関係部署と協議しながら適切な維持管理に努めます。 ・新たな施設を多くの方に利用していただけるようホームページ・広報等での周知を行います。	
評価委員の意見等	・計画的に施設の環境整備を遂行してください。 ・バリアフリー化や空調・設備更新が着実に進められており、安全で快適な利用環境づくりが評価できます。 ・屋内施設の空調設備の改修には、時間と費用がかかるため、業務用のスポットクーラーなどのレンタル品の活用もご検討いただきたいと思います。	

基本目標7 市民がともにつくる文化・芸術の振興

- 文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します。
- 市民と様々な文化団体との連携により、文化振興活動を支える体制を整備します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	身近で良質な鑑賞機会の充実（施策29）	担当課	
		文化・スポーツ課	
内 容	こまき市民文化財団と連携し、バリアフリーコンサートなどの実施により、広く市民に良質な鑑賞機会を提供します。		
達 成 状 況	・財団職員の専門性を活かしながら、市民により良質な文化芸術の鑑賞機会を提供しました。 ・市公民館では大規模改修工事において、講堂に展示ボックス、展示ロビーには可動壁を設け様々な規模の展示会に対応できるように改修し、良質な環境で文化・芸術の鑑賞ができるようにしました。		
	【主な公演事業】		
	内容	会場	来場者数
	駒来落語会 林家つる子・三遊亭わん丈二人会	北里市民センター	242 人
	江戸糸あやつり人形 結城座 大人のための人形劇 東海道中膝栗毛～赤坂並木から卯塔場まで～	味噌市民センター	94 人
	名渡山遼 Happy! Ukulele Summer Concert	味噌市民センター	150 人
	海洋ゴミ楽器集団ゴミンゾクバリアフリーコンサート	東部市民センター	160 人
	マリアセレン スペシャルコンサート	味噌市民センター	322 人
	朗読会 橋爪功	味噌市民センター	433 人
	吹奏楽フェスティバル 2024	東部市民センター	延べ 987 人
	芸術フェスティバル 2024	味噌市民センター	195 人
	東京大衆歌謡楽団 懐かしの昭和歌謡ショー	味噌市民センター	475 人
(次の表に続く)			

点検評価シート（令和6年度実績）

	(前の表の続き)		
	宝くじ文化公演 上野耕平・高橋優介スペシャルコンサート（ゲスト：朴葵姫）		東部市民センター 387 人
	小牧市制 70 周年記念・小牧市市民会館リニューアルオープン記念 花咲かタイムズ特別公演歌謡笑 ジョイン 水谷千重子 in 小牧市		市民会館 1, 278 人
	小牧市制 70 周年記念・小牧市市民会館リニューアルオープン記念公演 スペシャルゲスト 大黒摩季コンサート		市民会館 1, 273 人
	【主な展覧会】		
	内容		会場 来場者数
	小牧市制 70 周年記念・小牧市公民館 リニューアルオープン記念展覧会 漆 うるし URUSHI 浅井啓介展		公民館 1, 023 人
	【サンデーコンサート（5 回）・モーニングコンサート（1 回）】		
	会場		味岡市民センター、東部市民センター、まなび創造館
	来場者数		延べ 1, 750 人（R5 延べ 1, 119 人）
課 題	・ 普段文化や芸術に馴染みがない方も含め、より多くの客層の方に足を運んでいただくため、広く情報発信を行うと共に、興味を持ってもらえるような周知方法が求められます。		
今後の取組 の 方 向 性	・ より多くの方々に楽しんで頂ける事業を企画し、チラシ・ポスターの内容・PR方法を検討します。		
評 価 委 員 の 意 見 等	・ 小牧市のような中堅都市で美術館やオーケストラを持つのは特筆できることです。また、小中学校への巡回訪問をしていることも素晴らしいことです。 ・ 多彩な公演が身近な場所で行われており、市民にとって文化芸術への接触機会が広がっている点を高く評価します。今後は幅広い年齢層へのアプローチと情報発信の工夫が求められます。 ・ 今後も継続的な活動をお願いします。		

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こどもを対象とした文化事業の実施 (施策 2 9)	担当課			
		文化・スポーツ課			
内 容	学校アウトリーチ事業やこども向けの演劇公演など、こどもたちが文化に親しみ身近に感じてもらう機会を提供します。				
達 成 状 況	・プロのアーティストに依頼し、学校へのアウトリーチ事業を実施しました。 ・こどもたちにより幅広い文化芸術に触れる機会を提供できるようこども向けの演劇公演・美術ワークショップなどを実施しました。 ・生涯にわたって音楽文化に親しみ、心豊かな人間性を育むきっかけとなることを目的として、中部フィルハーモニー交響楽団による幼稚園・保育園・認定こども園、小中学校へのオーケストラ巡回演奏を実施しました。				
	【学校へのアウトリーチ事業】				
	分野	アーティスト名	訪問校	対象学年	人数
	落語	桂宮治	小木小学校	4～6 年	148 人
			北里小学校	5・6 年	168 人
		瀧川鯉三郎	一色小学校	5・6 年	150 人
		小計			466 人 (R5 464 人)
	音楽 ※和楽器	三門祐輝 他	小牧小学校	4・6 年	242 人
			村中小学校		111 人
		小計			353 人 (R5 110 人)
	ダンス ※コンテンポラリーダンス	浅井信好	桃ヶ丘小学校	6 年	70 人
	合計				889 人 (R5 574 人)
	【こども向けの演劇公演など】				
	公演名		会場	来場者数	
	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 第 20 回こまき山おやこラリー		小牧山 他	118 組 (R5 104 組)	
	(次の表に続く)				

点検評価シート（令和6年度実績）

	【ジュニア育成文化活動事業 伝統文化指導事業 学校派遣】	
	開催日	通年
	会場	市内小・中学校
	参加者数	延べ2,460人（R5 延べ2,373人）
課 題	・ニーズを把握し事業内容を検討することや、ターゲット層に向けて届くような集客方法を検討するとともに、こどもたちの知見を広げるために様々な文化に触れる手法が求められます。	
今後の取組の方向性	・ニーズを把握し事業内容を検討することや、ターゲット層に向けて届くような集客方法を検討するとともに、こどもたちの知見を広げるために様々な文化に触れる手法が求められます。	
評価委員の意見等	・こどもたちに向けた多彩な文化体験の提供は、豊かな感性を育む貴重な機会となっており、非常に意義のある取組であると評価します。今後は継続性を持たせるための地域連携や周知の工夫が求められます。 ・この項目に限ったことではありませんが、限られた事業予算の中でも「こども夢・チャレンジNo.1都市宣言」にふさわしい事業にしていきたいため、文化・スポーツ・芸能・研究開発・探検・海外協力関係者など、幅広い分野での人選を希望します。 ・今後も継続的な活動をお願いします。	

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民文化活動への支援（施策31）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	市内文化団体の活動の活性化、環境づくりが図られるようサポートを行います。	
達 成 状 況	・本市の文化芸術の推進の核となっている文化財団と共に様々な取組を行いました。 ・普及事業では、初めての試みとして、市民による舞台発表を公募から集めた「芸術フェスティバル2024」を開催し、活動発表の場を提供するとともに、来場者の方に様々な芸術発表の鑑賞機会を提供することで文化芸術活動への参加のきっかけとなるよう行いました。 ・伝統文化事業では、文化協会加盟団体の活動の場を提供しました。 ・団体のイベント情報などを、市や文化財団のホームページ等に掲載を行い、広報支援を行いました。 ・広報わくわくガイドでの会員募集や相談窓口の設置などを行いました。	
課 題	・文化協会については、加盟団体数の減少や会員が減少しています。	
今後の取組 の 方 向 性	・市や文化財団において、実態を把握し団体の実情に応じた支援体制を構築できるよう取り組みます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・市民活動団体と市民文化団体との特性の違いや棲み分けなどを市民発信し、該当する市民活動団体への直接的な勧誘も考えられます。 ・フェスティバルなどを通じて、多くの市民に発表機会を提供している点は評価できます。今後は団体の世代交代や新規参加者の掘り起こしが課題です。 ・文化協会などの組織的活動の範疇ではなくても、自己の欲求が叶えられる状態であれば、個々で生涯学ぶことはできていると思います。生涯学習は、様々な市民のニーズに対応することが求められ、さらに幅広い生涯学習の枠組みや受け皿が必要になると考えられます。	

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財団の活動支援（施策32）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	こまき市民文化財団が、文化振興の推進、文化芸術の普及のため、質が高く柔軟な事業企画、文化団体の活動のサポート、効率的・効果的な運営ができるよう支援を行います。	
達 成 状 況	・「市民がともにつくる文化を支え、文化をとおして人々に心の豊かさを提供します」というこまき市民文化財団のビジョンに基づき、財団職員の専門性を活かしながら多くの市民により良質な文化芸術を提供するために、支援を行いました。 【主な活動支援内容】 ・文化事業の委託 ・自主事業への補助金交付 等 【主な文化事業概要】 ①普及事業 鑑賞や体験を通して、良質な文化に触れあう機会を提供し、文化・芸術に興味を持つきっかけをつくる。 （幼稚園・保育園音楽鑑賞事業、小中学生オーケストラ演奏鑑賞事業、小心ズ 人形劇じゃない人形劇「The Gardener」、サンデーコンサート・モーニングコンサート、海洋ゴミ楽器集団ゴミンゾクバリアフリーコンサート、吹奏楽フェスティバル2024、芸術フェスティバル2024、こども・夢チャレンジ文化事業、音楽指導事業、アウトリーチ事業等） ②伝統文化事業 伝統文化に触れるための鑑賞や体験の機会を提供し、歴史の中で受け継がれてきた豊かな日本文化の継承に寄与するとともに、伝統文化に関する理解促進を図る。 （駒来落語会 林家つる子・三遊亭わん丈二人会、こども講談「想像は楽しい！講談で物語の世界へ」、ジュニア育成文化活動事業） ③舞台公演事業 芸術文化を身近に感じていただくとともに、あらゆる世代を対象に気軽に足を運んでいただけるよう、多彩な鑑賞機会を提供する。 （江戸糸あやつり人形 結城座 大人のための人形劇 東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～、名渡山遼 Happy! Ukulele Summer Concert、マリアセレン スペシャルコンサート、朗読会 橋爪功、東京大衆歌謡楽団 懐かしの昭和歌謡ショー、宝くじ文化公演 上野耕平・高橋優介スペシャルコンサート（ゲスト：朴葵姫）、小牧市制70周年記念・小牧市市民会館リニューアルオープン記念 花咲かタイムズ特別公演歌謡笑 ジョイン 水谷千重	

点検評価シート（令和6年度実績）

	子 in 小牧市、小牧市制 70 周年記念小牧市市民会館リニューアルオープン記念公演 スペシャルゲスト大黒摩季コンサート) ④美術事業 市民の創造的な文化活動を支援するための発表の場を提供し、身近な人々の作品を鑑賞することで文化活動の裾野を広げる事業の取組を進める。 （WISH くん展、メナード美術館連携事業 ワークショップ「木でバターナイフをつくってみよう!」、展覧会 近藤美和「黒い森～豊穣の闇～」、第 65 回小牧市民美術展、小牧市制 70 周年記念&小牧市公民館リニューアルオープン記念展覧会 漆 うるし URUSHI 浅井啓介展、美術ワークショップキャラバン「線と色の冒険! モンドリアン・チャレンジ!!」等) ⑤広報事業 財団が行う文化事業等の情報をより早く、広く周知するため、ホームページや LINE・Instagram をはじめとする SNS、動画配信、メディアなどを活用して積極的に発信する。 （情報誌「こまぶん」発行事業、動画配信、巡回バス車内広告・ホームページ・SNS の発信、友の会運営事業等）
課 題	・誰もが文化・芸術に親しみ心豊かな生活を送ることができるよう、文化団体の支援を行い、またより多くの市民に財団の事業を知っていただく必要があります。 ・広く市民に良質な鑑賞機会を提供するために、文化財団は効果的な事業選定やバランスの取れた事業を行うことが求められます。
今後の取組の方向性	・市と財団との連携体制を検討し、引き続き広報・ホームページ・LINE 等を使って周知に取り組みます。 ・市は財団と連携して関係団体や文化財団のネットワークを活かした、効果的でバランスのとれた事業が行えるよう取り組みます。
評価委員の意見等	・専門性を活かした活動が展開されており、事業の幅が広がっていることは高く評価できます。財源と人材の安定確保が求められます。 ・メナード美術館のワークショップに参加させていただきましたが、とても楽しかったです。 ・市民が芸術という幅広い分野における様々な作品に触れる機会を増やすと共に、アーティストの方々の活動支援に対しても、引き続き取組を期待します。

基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

- ☞ 郷土の歴史・文化に親しむことで、郷土への愛着や誇りを醸成します。
- ☞ 市民や関係機関と行政が協力し、郷土の歴史・文化遺産の保護、活用を進め、次世代へ継承します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財の指定・保護（施策33）	担当課
		文化財課
内 容	新たに保護すべき文化財などを見出す調査を行い、指定・保護を進めます。	
達 成 状 況	・令和7年1月23日（木）に小牧市文化財保護審議会において、市内東部地区に所在する3寺院について、所蔵する文化財の現地調査を行いました。 ・今年度の現地調査では、正確な制作年代が不明なものや所蔵する寺院との関係が不明瞭なものが多く、指定物件候補となる文化財はありませんでした。 ・彫刻（仏像）では、南北朝時代とみられるもの、江戸時代初期とみられるものなど、制作年代の確定はできないものの、市内には未確認の文化財が多く所在することが確認できました。	
課 題	・神社や寺院が所蔵する資料以外にも、新たに保護すべき文化財の調査対象を広げていく必要があります。 ・指定候補物件には至らないものの貴重な文化財が現地調査では見つかっており、これらの文化財も保護していく必要があります。	
今後の取組の方向性	・文化財の範囲は幅広く種類も様々であることから、市民がその価値をしっかりと認識し、後世に残していけるよう、文化財の保護・保存の必要性や、現在市内にある有形・無形の文化財の歴史や価値などについて、市民に向けてさらなる周知に努めることで、文化財保護に向けた市民の意識向上を図り、新たな文化財の発掘につなげていきます。 ・現時点では指定までには至らないものの、貴重な文化財を将来的に保存していくため、その価値を明らかにする必要があります。	
評価委員の意見等	・地域に残る貴重な文化財の調査が丁寧に行われており、将来の保存に向けた基礎的な取組として評価できます。今後は調査対象の拡充と市民への周知活動の強化が望まれます。	

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	古文書・歴史に関する講座等の開催（施策34）	担当課
		文化財課
内 容	小牧市の歴史や文化財への興味・関心を高めるため、古文書や歴史に関する講座の開催をはじめ、文化財巡りや歴史資料の展示・解説などを行います。	
達 成 状 況	・小牧の歴史への関心を高めることをねらいとして、「小牧市歴史文化基礎講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 対象：一般 受講料：各回400円 開催場所：小牧市役所東庁舎 大会議室（定員各回150人）	
	開催日	内 容
	6月29日 （土）	第1回 講師：元高校教師、扶桑古文書会代表 毛利 孝一 氏 「清須市における名古屋城刻紋石について」
	7月6日 （土）	第2回 講師：名古屋短期大学教授 太田 昌孝 氏 「言葉で読み解く桶狭間合戦～信長小牧山城への道～」
	7月13日 （土）	第3回 講師：愛知県埋蔵文化センター調査主任専門員 鈴木 正貴 氏 「考古学から考える小牧山城下町の成立—中世集落と清州城下町遺跡の研究成果から—」
	・古文書に親しむきっかけをつくることで、歴史への興味関心を高めることをねらいとして、「子ども古文書寺子屋」・「古文書基礎講座」・「古文書実践講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 開催場所：まなび創造館学習室（定員20人）	
	開催日	内 容
	7月28日 （日） 8月4日 （日）	「子ども古文書寺子屋」（連続2回） 一筆書きや文字カルタでくずし字の基礎を学び、戦国時代から江戸時代に書かれた書状や書き物を読みしました。 講師：小牧市古文書調査会 酒向道夫 氏 対象：小学4年生～中学生 受講料：無料

点検評価シート（令和6年度実績）

	基礎講座開催場所：小牧市役所本庁舎 404 会議室（定員 40 人） 実践講座開催場所：まなび創造館多目的室（定員 50 人）		
	開催日	内 容	受講者数
	9月14日・ 21日・28日、 10月 5日 いずれも (土)	「古文書基礎講座」（連続 4 回） 初心者の方を対象に、くずし字や変体仮名など古文書の基礎を分かり易く解説し、証文・手紙など身近な資料を読みました。 講師：小牧市古文書調査会 酒向道夫 氏 対象：一般 受講料：950 円	32 人
	1 月 11 日・ 25 日、 2 月 8 日・ 15 日 いずれも (土)	「古文書実践講座」（連続 4 回） 講師の助言を受けながら、自分の力で古文書を読み解く力をつけることを目指し、江戸時代、庶民が楽しんだ木版本や小牧に残る古文書の読解に挑戦しました。 講師：小牧市古文書調査会メンバー 対象：一般 受講料：950 円	35 人
	・ 民俗資料保存施設に保存している民俗資料等を活用し、こまきの昔の産業や暮らしを知る企画展示として、「こまきの養蚕」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 対象：小学生～一般 入場料：無料 開催場所：中央図書館 1 階イベントスペース		
	開催日	内 容	入場者数
	8 月 19 日 (月)～24 日 (土)	企画展「こまきの養蚕」 明治時代以降、こまきでは養蚕が盛んとなり、愛知県の養蚕関連施設がいくつか造られました。今では消えてしまった養蚕業を振り返る機会となるよう、養蚕道具を展示するとともに、養蚕の歴史や関連施設を紹介するパネルを展示しました。また、繭から糸を取り出す体験も行いました。	525 人

点検評価シート（令和6年度実績）

- ・小学校で郷土について学習することを受け、さらに発展的に郷土の歴史や地理・公民的内容への興味関心を高めるため、「こまき検定」を開催しました。あわせて、より多くの方にも郷土への関心を高めていただけるようホームページで問題文を紹介しました。
(小牧市文化財資料研究員会委託事業)

開催場所：小牧市役所本庁舎 601 会議室（定員 50 人）

開催日	内 容	参加者数
11月3日 (日)	「こまき検定」 小牧市の歴史・地理等に関する検定 (全 30 問中 21 問以上の正解で合格。問題の難易度は小学 5 年生程度) 対象：小学生・中学生 参加費：無料	25 人

- ・市内各地域に残る文化財を知ってもらい、地域への愛着を高める機会とするため、大草地区の旧道を巡る講座「文化財巡り」を開催しました。(愛知文教大学委託事業) (定員 30 人)

開催日	内 容	参加者数
11月10日 (日)	「文化財巡り」 小牧の文化財地図「訪ね歩きマップ（篠岡地区）」をもとに、篠岡地区を散策しました。 案内人：篠田徹氏ほか文化財地図作成委員 対象：一般 参加費：400 円	12 人

- ・「織田・徳川 vs. 武田、境界国衆の戦い」というテーマのもと、小牧とゆかりのある信長・家康に迫ることをねらいとして「歴史講座」を開催しました。(愛知文教大学委託事業)

対象：一般 参加費：各回 400 円

開催場所：まなび創造館あさひホール（定員各回 300 人）

開催日	内 容	受講者数
10 月 20 日 (日)	第 1 回 講師：中津川市苗木遠山史料館 元館長 小林 良英 氏 「戦国の東美濃と苗木城」	97 人
11 月 2 日 (土)	第 2 回 講師：静岡県立美術館 主任学芸員 薄田 大輔 氏 「長篠合戦図屏風の成立と展開 家康の戦いの表象」	中止

(次の表に続く)

点検評価シート（令和6年度実績）

	(前の表の続き) <table><tr><td>11月23日 (土)</td><td>第3回 講師：新城市設楽原歴史資料館 館長 湯浅 大司 氏 「奥平家と菅沼家～奥三河の国衆はどう動いたか」</td><td>73人</td></tr><tr><td>11月30日 (土)</td><td>第4回 講師：湯浅 大司 氏 「長篠・設楽原の戦いはどんな戦いだったのか」</td><td>91人</td></tr><tr><td>12月15日 (日)</td><td>第5回 講師：静岡市歴史博物館 学芸課 主任 鈴木 将典 氏 「戦国時代の遠江と国衆」</td><td>90人</td></tr></table> ※11月2日は大雨の影響で交通機関が運休し、講師が来られなかったため中止としたもの。 ・織田信長の物語というテーマのもと、中国古典学、日本近世文学、近現代メディア論という観点から織田信長の実像に迫ることをねらいとして「信長学講座」を開催しました。(愛知文教大学委託事業) 対象：一般 受講料：各回 350 円 開催場所 まなび創造館あさひホール (定員各回 300 人) <table><tr><td>開催日</td><td>内 容</td><td>受講者数</td></tr><tr><td>2月11日 (火・祝)</td><td>第1回 講師：愛知文教大学 教授 西口智也 氏 「織田信長は英雄か？」</td><td>77人</td></tr><tr><td>2月15日 (土)</td><td>第2回 講師：愛知文教大学 教授 村松美奈 氏 「信長像の変遷」</td><td>68人</td></tr><tr><td>2月22日 (土)</td><td>第3回 講師：愛知文教大学 准教授 佐藤 良太 氏 「近現代メディアにみる創られた<信長>像」</td><td>55人</td></tr></table>	11月23日 (土)	第3回 講師：新城市設楽原歴史資料館 館長 湯浅 大司 氏 「奥平家と菅沼家～奥三河の国衆はどう動いたか」	73人	11月30日 (土)	第4回 講師：湯浅 大司 氏 「長篠・設楽原の戦いはどんな戦いだったのか」	91人	12月15日 (日)	第5回 講師：静岡市歴史博物館 学芸課 主任 鈴木 将典 氏 「戦国時代の遠江と国衆」	90人	開催日	内 容	受講者数	2月11日 (火・祝)	第1回 講師：愛知文教大学 教授 西口智也 氏 「織田信長は英雄か？」	77人	2月15日 (土)	第2回 講師：愛知文教大学 教授 村松美奈 氏 「信長像の変遷」	68人	2月22日 (土)	第3回 講師：愛知文教大学 准教授 佐藤 良太 氏 「近現代メディアにみる創られた<信長>像」	55人
11月23日 (土)	第3回 講師：新城市設楽原歴史資料館 館長 湯浅 大司 氏 「奥平家と菅沼家～奥三河の国衆はどう動いたか」	73人																				
11月30日 (土)	第4回 講師：湯浅 大司 氏 「長篠・設楽原の戦いはどんな戦いだったのか」	91人																				
12月15日 (日)	第5回 講師：静岡市歴史博物館 学芸課 主任 鈴木 将典 氏 「戦国時代の遠江と国衆」	90人																				
開催日	内 容	受講者数																				
2月11日 (火・祝)	第1回 講師：愛知文教大学 教授 西口智也 氏 「織田信長は英雄か？」	77人																				
2月15日 (土)	第2回 講師：愛知文教大学 教授 村松美奈 氏 「信長像の変遷」	68人																				
2月22日 (土)	第3回 講師：愛知文教大学 准教授 佐藤 良太 氏 「近現代メディアにみる創られた<信長>像」	55人																				
課 題	・「歴史文化基礎講座」や「古文書講座」の参加者数は、昨年度と比較して増加していますが、「歴史講座」の参加者は年々減少傾向にあります。このため、様々な年代の市民が小牧市の歴史について興味・関心を高められるような内容を検討するとともに、開催方法や、回数についても見直す必要があります。 ・若い世代が小牧市の歴史に興味を持つきっかけとなるよう、市内に残る貴重な文化財や歴史に気軽に触れられるような機会を増やしていく必要があります。																					
今後の取組 の 方 向 性	・こどもを対象とした古文書講座「子ども古文書寺子屋」の受講者は、参加しやすい日程としたことやNHK大河ドラマ「光る君へ」の影響もあり、徐々に増えています。今後も子ども達が興味を持って参加したくなるような魅力ある内容となるよう工夫していきます。(R4：4人 R5：10人 R6：16人)																					

点検評価シート（令和6年度実績）

	・古文書に興味・関心を持ち親しんでもらえるよう、地元に残る古文書を題材にした講座を引き続き実施します。 ・市が所有・保管する民具等を活用した企画展「こまきの養蚕」については、令和夏まつりの開催時期と合わせ、中央図書館イベントスペースにおいて実施したこと、また、実際に繭から糸を紡ぐ体験コーナーを設けたことで、親子連れやこども達をはじめとして、大変多くの方に興味関心をもっていただくことができました。今後も、昔の暮らしを知ることができるよう民俗資料を活用するなどし、展示を継続・発展させられるようテーマを設定するとともに、諸行事と同時開催するなど、若い世代をはじめ、より多くの方に見えていただけるよう開催場所・時期等を検討のうえ実施します。
評価委員 の意見等	・古文書の講座に参加するこどもが増加していることは、とてもいい傾向です。小牧の歴史・文化を幅広く発信する機会を継続してください。 ・メディアとの関連付けは、積極的に行っていただきたいです。 ・地域の歴史を深く知るきっかけとして講座が効果的に実施されており、来場者も安定しています。成果の発信や継続的な学びへの支援が望まれます。 ・市民以外でも小牧市に愛着を持ってもらえるような講座や展示会など、今後どのような企画が生まれるのか楽しみにしています。

点検評価シート（令和 6 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進（施策 3 5）	担当課 小牧山課
内 容	令和 7 年度の完成を目指し、史跡小牧山主郭地区のうち、小牧山歴史館周囲の石垣復元などの史跡整備を進めており、令和 6 年度は北東側の整備工事を行います。また、大手道の整備に向けた発掘調査を行います。	
達 成 状 況	・小牧山山頂（小牧山歴史館北東側箇所）において織田信長が築いた 2 段の石垣復元を主とした史跡整備（整備面積約 572 m²）を行いました。 ・小牧山の主郭に至る織田信長が築いた大手の登城路において、登城路の構造や、道幅などを明らかにするため、史跡小牧山大手道発掘調査を実施しました（調査面積 408 m²）。 ・発掘調査では、岩盤を切り立て、その上部に石垣を築くなど、大手道の壁面が、令和 5 年度に整備した歴史館南側の大手道と同様の構造をしていることが分かりました。また、大手の登城路は、山側の岩盤を切り立て、谷側に土を積み上げるなどの大規模な造成を行い、平坦地を作り出していることが分かりました ・令和 7 年 2 月 16 日（日）に午前、午後の 2 回現地説明会を行い、280 人が参加しました。	
課 題	・発掘調査後は遺構保護を目的とした埋戻しを行うため、発掘調査で見つかった遺構などを現地で直接見ることはできません。このため、小牧山の来訪者に発掘調査で得られた成果を伝えていく必要があります。 ・発掘調査の成果に基づき行う石垣等の復元整備においては、築城当時の高さまでの復元は行わず植栽等で石垣の本来の高さを表現するなどしています。これらの史跡整備の方針や発掘調査で明らかになったことなどを、現地で来訪者にわかりやすく知っていただく工夫が必要です。	
今後の取組の方向性	・市ホームページに現地説明会資料を掲載し、説明会以降も調査成果が周知できるようにするほか、小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）において、発掘調査や史跡整備に関する企画展示を行い、周知に努めます。 ・現地を訪れた来訪者が、小牧山城の価値や魅力についてより深く理解できるよう、これまで設置している解説看板に加え、CGビューアーなど新たな手法による解説を取り入れていきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・石垣の復元や発掘調査が着実に進められており、現地説明会などで市民理解を深めている点が評価できます。整備と発信の両立に今後も努めていただきたいと思います。	

点検評価シート（令和6年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発（施策35）	担当課												
		小牧山課												
内 容	史跡小牧山の歴史的価値や魅力について、小牧山を来訪された方により理解していただけるよう、小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）において、発掘調査の成果を周知する企画展示や講座などを開催します。													
達 成 状 況	・小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）において、指定管理者である（一財）こまき市民文化財団により下記のとおり各種事業を行いました。 ●小牧山歴史館企画展（観覧無料） 「小牧山から歩いて行ける文化財」 期 間 1月30日（木）～3月20日（木・祝） 会 場 1階 無料エリア 来場者数 11,611人（総入場者数） ●れきしるこまき企画展（観覧無料） 「令和によみがえれ信長の城 令和6年度小牧山城石垣復元パネル展」 期 間 4月26日（金）～6月11日（火） 会 場 企画展示・資料室 来場者数 3,882人（企画展示・資料室入場者数） 「史跡小牧山主郭地区 発掘調査20年の歩み」 期 間 10月1日（火）～11月26日（火） 会 場 企画展示・資料室 来場者数 6,209人（企画展示・資料室入場者数） ●小牧山歴史館事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>内容</th><th>参加者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月3日（金・祝）、 11月3日（日）</td><td>小牧山城茶会 一服：300円 定員：各回200人</td><td>388人</td></tr> <tr> <td>5月12日（日）、 7月28日（日）</td><td>戦国体験 体験料：無料 定員：なし</td><td>340人</td></tr> <tr> <td>毎週土・日曜日</td><td>忍者衣装試着体験 体験料：500円</td><td>57人</td></tr> </tbody> </table>		開催日	内容	参加者数	5月3日（金・祝）、 11月3日（日）	小牧山城茶会 一服：300円 定員：各回200人	388人	5月12日（日）、 7月28日（日）	戦国体験 体験料：無料 定員：なし	340人	毎週土・日曜日	忍者衣装試着体験 体験料：500円	57人
開催日	内容	参加者数												
5月3日（金・祝）、 11月3日（日）	小牧山城茶会 一服：300円 定員：各回200人	388人												
5月12日（日）、 7月28日（日）	戦国体験 体験料：無料 定員：なし	340人												
毎週土・日曜日	忍者衣装試着体験 体験料：500円	57人												

点検評価シート（令和6年度実績）

●れきしるこまき事業

開催日	内容	参加者数
11月16日（土） ～12月15日（日）	ぐるぐるめぐる！ 小牧山スタンプラリー2024 参加料：入館料のみ	538人

●れきしるこまき講座・講演

開催日	演題	講師	受講者数
5月3日 （金・祝）	れきしるこまきジュニア講座 ゴールデンウィーク企画 「みる！しる！小牧山」 受講料：30円 定員：30人	れきしるこまき職員	28人
8月3日 （土）	れきしるこまきジュニア講座 「小牧山城の発掘品にふれてみよう！」 受講料：150円 定員：30人	小牧山課職員、れきしるこまき職員	13人
9月16日 （月・祝）	れきしるこまき講座 「信長の城郭革命-石垣・瓦・天主を中心に-」 受講料：400円 定員：80人	中井均氏 （滋賀県立大学名誉教授）	80人
11月30日 （土）	秋の小牧山 わくわく史跡探検 【こども編】 参加料：30円 定員：30人	れきしるこまき職員	22人
12月8日 （日）	れきしるこまき講座 「小牧山城 ～信長初の山城と家康初の平城の統合～」 受講料：400円 定員：80人	三浦正幸氏 （広島大学名誉教授）	80人
3月16日 （日）	れきしるこまき講座 「織田信雄と小牧・長久手の戦い」 受講料：400円 定員：80人	播磨良紀氏 （中京大学文学部名誉教授）	79人

●れきしるこまきワークショップ

開催日	内容	講師	参加者数
6月16日 （日）	「つくってみよう戦国ルービックペーパー」	れきしるこまき職員	7人
7月28日 （日）	夏休み企画自由研究にピッタリ！「小牧山城本丸石垣ジオラマをつくろう」 参加費：500円 定員：20人	れきしるこまき職員	20人

（次の表に続く）

点検評価シート（令和6年度実績）

	(前の表の続き)			
	1月25日 (土)	「家紋刷り体験 ～好きな家紋でオリジナルハンカチをつくろう!～」 参加費：1,200円 定員：各回（2回）20名	中村剛大氏 (山勝染工(株) 代表取締役)	36人
	3月9日 (日)	「発掘品模型と花押缶バッジをつくろう」 参加費：150円 定員：各回（2回）20人	れきしるこ まき職員	29人
課 題	・受講定員に達していない講座やワークショップについて、実施内容の見直しや実施の可否について、指定管理者と連携し検討する必要があります。 ・史跡小牧山のガイド施設として、今後も発掘調査や小牧山城の復元整備の概要や成果をはじめ、歴史的価値や魅力を分かりやすくタイムリーに情報発信していく必要があります。			
今後の取組 の 方 向 性	・指定管理者である（一財）こまき市民文化財団において、引き続き史跡小牧山の発掘調査の成果や、史跡整備の状況の解説などタイムリーな企画展示や講座などの開催に努めます。 ・受講者数の少ない講座やワークショップなどの実施内容を事業終了後にHPに掲載し、「次回は参加したい」と思っただけのよう情報発信に努めます。 ・小牧山城の発掘調査や復元整備の情報を、来訪者に向けて分かりやすく、よりタイムリーに解説できるよう、れきしるこまきガイドボランティアの育成やスキルアップに努めます。			
評 価 委 員 の 意 見 等	・展示や体験型講座の工夫が見られ、地域の歴史資源を活かした啓発活動として評価できます。デジタル化や外国語対応の強化が望まれます。 ・SNSの利用なども含め、講座やイベント以外に小牧山の歴史的価値や魅力の伝達方法の工夫が必要だと思います。			